

目 次

I.	教育課程について	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	5
III.	成績評価基準	5
IV.	卒業の要件に関する単位内訳表	6
V.	服飾学部服飾文化学科カリキュラム表	7
VI.	履 修 の 方 法	13
VII.	学芸員課程について	17
VIII.	授 業 計 画	25

I. 教育課程について

(2023 年度生用)

本学の教育課程は、学則第2条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 7 頁の服飾学部服飾文化学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

（1）教育課程編成

〔初年次教育〕

初年次教育課程は、服飾に関する基本的な知識と技術を修得するための導入の課程として、必修科目と専門選択科目および学修基礎を置き、服飾学科と共通する科目を含めた学科独自の科目編成とする。この教育課程における必修科目は10単位の設定となる。

〔専門教育〕

2年次からの専門教育課程は、服飾文化に関する理論と製作の双方を基礎から応用、発展に向けて総合的に取り組む課程となる。日本および世界の服飾文化を歴史的、空間的に捉え、現代が抱える様々な問題を見出し、問題解決に向けての発想力、提案力を養成するための科目編成とする。この教育課程における必修科目は54単位の設定となる。

〔教養教育〕

教養教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・国際関係・外国語に関する科目編成とする。この教育課程では外国語は8単位以上、それ以外の科目で26単位以上の履修を要求する。

（2）実施の方針

〔初年次教育〕

初年次教育課程では、服飾関連科目について、概論から実技まで講義・演習・実習の幅広い授業形態で行い、2年次からの専門教育に向けた基本的な知識と技術を習得する。また、学修基礎は大学における学生生活と学修に向けた内容（スチューデントスキル、アカデミックスキル、ソーシャルスキル）で組み立てられ、大学4年間の学びの導入として各専門の教員がオムニバス形式で行う。これらの授業ではその内容に応じ、アクティブ・ラーニングを適切に取り入れる。

主要科目：学修基礎、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、西洋服飾文化史、サステイナブル・ファッション概論、ファッションビジネス概論、フィールドワーク

[専門教育]

専門教育課程では、初年次教育の学修を踏まえ、服飾文化に関する理論と製作の双方から専門的に学修を積み重ねていく。

・2年次では、主要講義科目として「日本服飾文化史」「民族衣装論」「ファッションと環境」、を置き、服飾文化学科における専門教育の基礎となる知識を学ぶ。専門知識と合せてデータ活用について学ぶ「マーケティング・データサイエンス論」は既設学科同様、学部共通科目として置く。また実習科目として、「リ・ファッション実習」「レプリカ製作（民族衣装）」を置き、服飾に関わる産業や社会における現代的課題（SDGs等）への取り組みに向けた製作にかかわる技術力を身につける。特に実習系の科目では産学連携・博学連携プロジェクトに積極的に取り組んでいく。

・3年次では、主要講義科目として「衣の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ」、主要実習科目として「レプリカ製作（歴史衣装）」「エシカル・ファッション実習」を置き、服飾文化に関する専門性を深めるための知識や技術を探求する。また、少人数制の演習科目「服飾文化演習A・B」「服飾文化造形演習A・B」を置き、服飾文化の継承と持続的発展に向けた課題に関してプレゼンテーションやディスカッションを行い、卒業研究テーマの選定に繋げていく。

3年次においても実習系の科目を中心に、博学連携・産学連携・域学連携プロジェクトに積極的に取り組んでいく。

・4年次では、4年間の学修の集大成として「卒業研究Ⅰ・Ⅱ（制作）」または「卒業研究Ⅰ・Ⅱ（論文）」に取り組み、その研究成果を学内外に広く公開していく。

[教養教育]

教養科目では、キャリア科目から外国語科目にわたって多領域からなる50科目を置く。特に外国語科目については服飾業界での必要性に対応して3,4年次での受講も可能とする。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

世界と日本の服飾文化を歴史的、空間的に高度な見地から把握し、理論又は制作の面から服飾文化の継承と発展に参画できる能力を身につけることを目的とする。

具体的には、服飾文化が内包する現代的な課題（SDGs等）の解決に向けての発想力と提案力を有する服飾の専門職業人としての能力を備えることを目標とする。

卒業時の到達目標は、次に掲げる職業分野に要求される能力を身につけていることである。

服飾関連企業の企画・製造・販売およびサステナビリティ分野のスタッフ

博物館・美術館・資料館などの学芸員および文化活動スタッフ

地域活性化に取り組む企業・団体のスタッフ

アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- *専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$

IV. 履修科目単位内訳表

(2023年度生用)

杉野服飾大学 服飾学部 服飾文化学科

授業科目の区分と履修方法		修 得 単 位 数
専 門 科 目	必 修	54
	選択必修	6
	選 択	30
専門科目合計		90 単位
教 養 科 目	初 年 次 必 修	10
	一 般 体 育 国際関係 選 択	16
	外 国 語 選択必修	8
教養科目合計		34 単位
総 合 計		124 単位

V. 服飾学部服飾文化学科カリキュラム表

(2023年度生)大-1

専服 門飾 科関 目係	授業科目名	単位数			履修方法			資格 取得を 目的と するもの 学 芸 員 課 程	配 当 年 次	週時間数		備 考
		講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの					前 期	後 期	
					必 修	選 択	自 由					
	服飾造形基礎 I		3		○				1	6		
	サステイナブル・ファッション概論	2			○				1	2		
	ファッション画 I		1		○				1	2		
	ファッションビジネス概論	2			○				1	2		
	ファッション・フィールド・リサーチ		1		○				1	2		
	フィールドワーク(集中)		1		○				1	2		
	服飾造形基礎 II		3		○				1		6	
	西洋服飾文化史	2			○				1		2	
	衣服材料学	2			○				1		2	
	ドローイング I a		2		○				1		4	
	色彩演習	2			○				1		2	
	リ・ファッション実習			2	○				2	6		
	服飾史料研究		1		○				2	2		
	日本服飾文化史	2			○				2	2		
	ファッション史	2			○				2	2		
	アパレル素材論	2			○				2	2		
	CADパターンメイキング		1		○				2	2		
	レプリカ製作(民族衣裳)			2	○				2		6	
	民族衣裳論	2			○				2		2	
	ファッションと環境	2			○				2		2	
	ユニバーサルファッション論	2			○				2		2	
	現代ファッション論	2			○				2		2	
	マーケティング・データサイエンス論	2			○				2		2	
	レプリカ製作(歴史衣裳)			2	○				3	6		
	衣の伝統と現代 I (衣の民俗文化)	2			○				3	2		
	服飾文化演習A		1		(○)				3	2		
	服飾文化造形演習A			1	(○)				3	3		
	レプリカ製作特講	1			○				3	集中15h		
	エシカル・ファッション実習			2	○				3		6	
	衣の伝統と現代 II (衣のものづくり)	2			○				3		2	
	服飾文化演習B		1		(○)				3		2	
	服飾文化造形演習B			1	(○)				3		3	
	衣服修復技術	2			○				3		2	
	卒業研究 I (制作)			2	(○)				4	6		
	卒業研究 I (論文)		2		(○)				4	4		
	卒業研究 II (制作)			2	(○)				4		6	
	卒業研究 II (論文)		2		(○)				4		4	
	計	33	19	14								
	専門科目(服飾関係)必修科目については、54単位を修得すること 専門科目(服飾関係)選択必修科目については、6単位を修得すること											

授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの 学 芸 員 課 程	配 当 年 次	週時間数		備 考
	講	演	実 験 実 習	必 修	選 択	自 由			前 期	後 期	
服飾造形応用		2			○			1		4	
人体工学論	2				○			1	2		
現代デザイン論	2				○		○	1	2		
ファッション販売論	2				○			1	2		
流行論	2				○			1		2	
流通・商業入門	2				○			1	2		
ファッション画Ⅱ		1			○			1		2	
経営学入門	2				○			1	2		
画像設計演習		1			○			2	2		
ドローイングⅡ			1		○			2	3		原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可
写真表現演習		1			○			2	2		
立体造形演習		1			○			2		2	
和服構成論・実習Ⅰ			1		○			2	3		
和服構成論・実習Ⅱ			1		○			2		3	
衣服管理	2				○			2	2		
染色化学	2				○			2		2	
繊維ファッション産業構造論	2				○			2		2	2024年度開講学期変更
映像制作			1		○			2	集中	45h	
基礎デザイン(平面)		1			○			2	2		
基礎デザイン(立体)		1			○			2		2	
ファッション販売論上級	2				○			2		2	
色彩実践学	2				○			2		2	
色材演習		1			○			2		2	
服飾手芸(ニットを含む)			1		○			2		3	
服飾クラフト			1		○			2	3		
服飾デザイン概論	2				○			2	2		
デザインプロセス		1			○			2	2		
消費者行動論Ⅰ	2				○			2		2	
グローバルマネジメント特論Ⅰ	2				○			2		2	
ブライダルファッションプランニングゼミ		2			○			2	2又	は2	
インターンシップ			2		○			2		集中90h	
								3	又は集中	又は集中	
長期インターンシップ			4		○			2		180h	
								3	又は180h	又は180h	
ショップディスプレイ	2				○			3		2	
メディアコミュニケーション論	2				○			3	2		
ファッション画(CG)			1		○			3		3	
アパレル産業論特講	2				○			3		2	2024年度廃止
染織史	2				○		○	3	2		
ファッションプレゼンテーション演習		2			○		○	3	4		
ドレーピング&パターンメイキング(選)			1		○			3	3		
近代日本モード史	2				○			3	2		
リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2				○			3	2		
コミュニケーション論	2				○			3	2		2024年度廃止
現代流通論	2				○			3	2		

	授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの 学 芸 員 課 程	配 当 年 次	週時間数		備 考
		講	演	実	必	選	自			前	後	
専 門 科	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2				○			2	2		
	家庭電気・機械	1				○			2	1		
	食物学(実践栄養学)	2				○			2		2	
	家庭情報処理	1				○			2		1	
	食物学(食品学)	2				○			3	2		
	住居学(製図を含む)	2				○			3		2	
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2				○			3		2	
	食文化論	2				○			3	2		
	食物学(調理実習・実験) I			1		○			3	3		
	食物学(調理実習・実験) II			1		○			3		3	
	専門選択小計	58	14	16								
	専門科目小計	91	33	30								
	専門科目合計	154										
目	専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として30単位以上を修得すること。											
教 養 科 目	初年次 学習基礎	2				○			1	2		
	キャリア 情報演習	文章表現	2				○			1	2	
		情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	1	1			○			1	2	
		情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	1	1			○			1		2
		キャリアプランニング	2				○			2		2
	一般	社会人基礎A	2				○			1	2	
		社会人基礎B	2				○			1		2
		心理学A	2				○			1・2	2	
		心理学B	2				○			1・2		2
		文学	2				○			1		2
		日本美術史	2				○		○	1		2
		西洋美術史	2				○		○	1	2	
		憲法	2				○			1・2	2	
		社会福祉学A	2				○			1・2	2	2024年度 廃止
		社会福祉学B	2				○			1・2		2
化学A	2				○			1・2	2			
化学B	2				○			1・2		2		
体育	体育A		1			○			1	2又	は2	
	体育B		1			○			1・2		2	

授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数		備考
	講義	演習	実習	必修	選択	自由			前	後	
言語と服飾文化	2				○			3・4	2		
日本文化・日本事情 I	2				○			1・3	2		外国人留学生は履修のこと
日本文化・日本事情 II	2				○			1・3		2	外国人留学生は履修のこと
英語(総合)A	2				○			2	2		
英語(総合)B	2				○			2		2	
ワールド・カルチャーA	2				○			2	2		
ワールド・カルチャーB	2				○			2		2	
国際関係 実用英語 A	2				○			2	2		
実用英語 B	2				○			2		2	
ファッション英語 A	2				○			2	2		
ファッション英語 B	2				○			2		2	
フランス語(総合) A	2				○			2	2		
フランス語(総合) B	2				○			2		2	
ファッションフランス語 A	2				○			2	2		
ファッションフランス語 B	2				○			2		2	
中国語(総合) A	2				○			2	2		
中国語(総合) B	2				○			2		2	
中国語(会話) A	2				○			2	2		
中国語(会話) B	2				○			2		2	
英語(総合) I	2				○			1	2		
英語(総合) II	2				○			1		2	
基礎英会話 I	2				○			1	2		
基礎英会話 II	2				○			1		2	
フランス語(総合) I	2				○			1	2		
フランス語(総合) II	2				○			1		2	
フランス語(会話) I	2				○			1	2		
フランス語(会話) II	2				○			1		2	
中国語(総合) I	2				○			1	2		
中国語(総合) II	2				○			1		2	
中国語(会話) I	2				○			1	2		
中国語(会話) II	2				○			1		2	
日本語 I	4				○			1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照
日本語 II	4				○			1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照
教養科目合計	102	4									

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか・I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。

具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する

②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。

但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

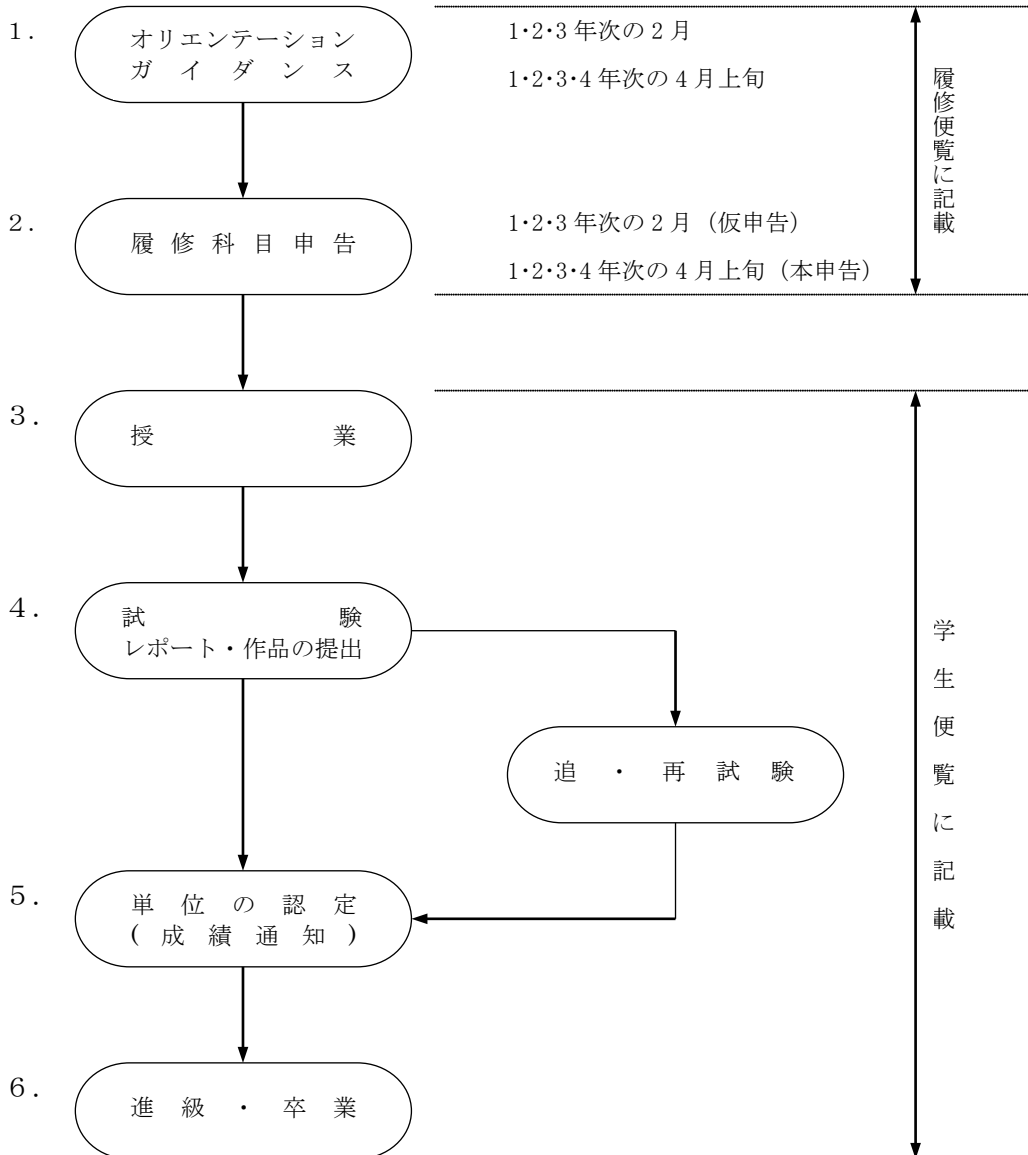
授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの 学 芸 員 課 程	配 当 年 次	週時間数		備 考
	講	演	実	必	選	自			前	後	
生涯学習概論	2						○	1		2	
博物館概論	2						○	1		2	
博物館経営論	2						○	2	2		
博物館資料論	2						○	2	2		
博物館資料保存論	2						○	2		2	
博物館展示論	2						○	3		2	
博物館教育論	2						○	3	2		
博物館情報・メディア論	2						○	3		2	
博物館実習			3				○	4	3	3及 集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
計	16		3								
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。											
<p>カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。</p> <p>1)原則として開講学年順とします。</p> <p>2)個々の履修状況に応じて審議決定します。</p> <p>(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。</p>											

VI. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。

以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一か年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「学生ポータル」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

- ① 1年次の年度始め
1年次前期に受講する科目をすべて申告してください。
- ② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)
これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。
- ③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目を入力)
※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。
- ④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)
後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

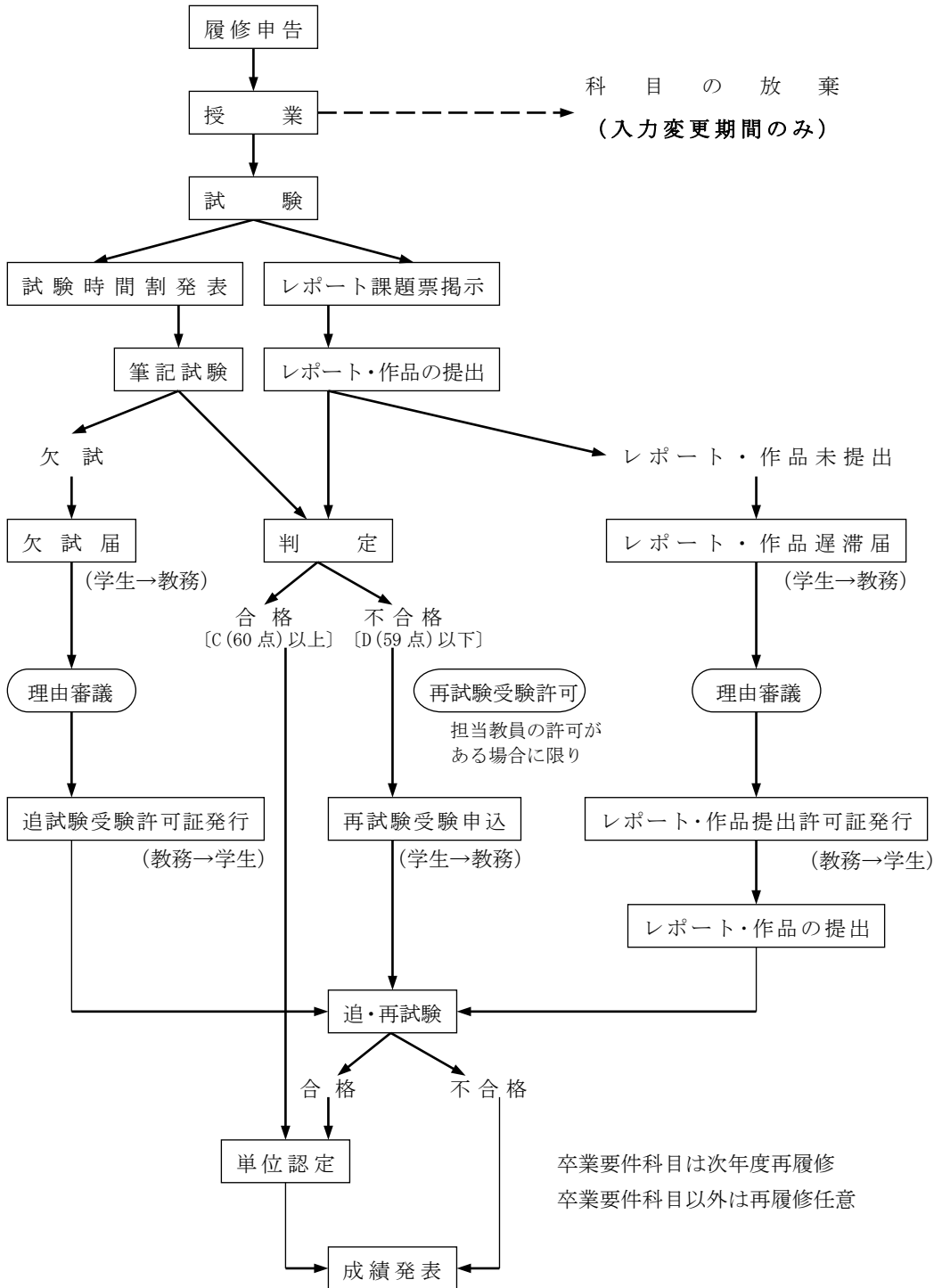
◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで



博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第 1 条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第 4 条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修すること 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

VIII. 授業計画

【整理番号】

■専門科目■

- 【1】 リ・ファッション実習
- 【2】 服飾史料研究
- 【3】 日本服飾文化史
- 【4】 ファッション史
- 【5】 アパレル素材論
- 【6】 CADパターンメイキング
- 【7】 レプリカ製作(民族衣裳)
- 【8】 民族衣裳論
- 【9】 ファッションと環境
- 【10】 ユニバーサルファッション論
- 【11】 現代ファッション論
- 【12】 マーケティング・データサイエンス論
- 【13】 画像設計演習
- 【14】 写真表現演習
- 【15】 立体造形演習
- 【16】 和服構成論・実習 I
- 【17】 和服構成論・実習 II
- 【18】 衣服管理
- 【19】 染色化学
- 【20】 映像制作
- 【21】 基礎デザイン(平面)
- 【22】 基礎デザイン(立体)
- 【23】 ファッション販売論上級
- 【24】 色彩実践学
- 【25】 色材演習
- 【26】 服飾クラフト
- 【27】 服飾デザイン概論
- 【28】 デザインプロセス
- 【29】 消費者行動論 I
- 【30】 グローバルマネジメント特論 I
- 【31】 ブライダルファッションプランニングゼミ
- 【32】 インターンシップ
- 【33】 長期インターンシップ
- 【34】 家庭経営学
- 【35】 家庭電気・機械
- 【36】 食物学(実践栄養学)
- 【37】 家庭情報処理

- 【50】 中国語(総合)A
- 【51】 中国語(総合)B

■学芸員■

- 【52】 博物館経営論
- 【53】 博物館資料論
- 【54】 博物館資料保存論

<2024年度未開講>

- ドローイング II
- 繊維ファッション産業構造論
- 服飾手芸(ニットを含む)
- 社会福祉学A
- 社会福祉学B
- 体育B
- 英語(総合)B
- ワールド・カルチャーB
- 実用英語 A
- 実用英語 B
- ファッションフランス語 A
- ファッションフランス語 B
- 中国語(会話)A
- 中国語(会話)B

■キャリア■

- 【38】 キャリアプランニング

■教養科目■

- 【39】 心理学A
- 【40】 心理学B
- 【41】 憲法
- 【42】 化学A
- 【43】 化学B
- 【44】 英語(総合)A
- 【45】 ワールド・カルチャーA
- 【46】 ファッション英語 A
- 【47】 ファッション英語 B
- 【48】 フランス語(総合)A
- 【49】 フランス語(総合)B

リ・ファッション実習

井口 多恵子

2年 前期 必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

1年次「サステイナブルファッション概論」で得た知識をもとに、アパレル業界が取り組んでいる環境に配慮した活動や現状を知り、それらの取り組みを理解したうえで古着や不用衣料品からアップサイクルになる衣料品について考え、実制作に繋げる。制作するうえでさらに必要な服飾の知識や縫製技術を修得する。

■到達目標（学修成果）

アップサイクル作品の制作を通して応用力、発想力を身に付ける
衣服を解体することで服の成り立ちや形状を理解できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件単位の科目。服飾に関係する現代的な問題（SDGs等）を解決する能力を備える科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の概要について、著作権について さまざまなアイテムの服の形を観察する	予習：シラバスを読んで確認する	20分
2回	ワンピースドレスについて ウエスト切り替えワンピースドレス製図(1/2縮尺)→提出	予習：ワンピースドレスについて調べる 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
3回	ハイウエストワンピースドレスの組み立て→提出 パンツについて	予習：パンツについて調べる 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
4回	基本パンツ製図(1/2縮尺)→トワル作成、シルエット確認 パンツ部分縫製(切り替えポケット)	予習：製図の引き方を確認する 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
5回	パンツ部分縫製(ファスナー付け、ベルト付け) 部分縫製(手縫い)	予習：ファスナー付けについて調べる 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
6回	課題作品：衣服の形状を知る(グループワーク) ゲスト講師による事例紹介	予習：ゲスト講師関連事例を調べる 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
7回	課題作品：衣服の形状を知る(グループワーク) 衣服解体	復習：遅滞箇所を行う	30分
8回	課題作品：衣服の形状を知る(グループワーク) 衣服解体	復習：遅滞箇所を行う	30分
9回	実物制作(アップサイクル作品)使用する素材を調べる 制作テーマ考案	予習：素材について調べる 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
10回	実物制作(アップサイクル作品)制作テーマ考案 デザイン考案	復習：遅滞箇所を行う	30分
11回	実物制作(アップサイクル作品)パターンメイキング またはドレーピング	復習：遅滞箇所を行う	30分
12回	実物制作(アップサイクル作品)縫製	復習：遅滞箇所を行う	30分
13回	実物制作(アップサイクル作品)縫製	復習：遅滞箇所を行う	30分
14回	実物制作(アップサイクル作品)縫製、仕上げ	予習：プレゼンテーションの準備 復習：遅滞箇所を行う	60分 30分
15回	プレゼンテーション発表、提出作品のディスカッション まとめ	予習：プレゼンテーションの準備	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出される課題、作品は点検後評価し、授業内に返却する。manabaにコメントする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

提出物が未了の場合は、再履修となる

■教科書

基礎テキスト 杉野学園 ドレメ式原型 杉野学園 PATTERN MAKING I・II 杉野学園 SEWING1・II 杉野学園

■参考文献 必要に応じて適宜紹介します

■オフィスアワー・研究室 初回授業にお知らせします。

■備考 状況により内容、日程に変更があります。

準備学修の時間は各自が必要な時間を行うようにしてください。

服飾史料研究

菅野 ももこ

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

衣服の歴史を辿ることは、新たな創造に繋がります。そのために「服」そのものを観察することは必要不可欠と言えます。本授業では、実物資料に寄り添った研究をテーマとし、そのために必要な調査方法について学びます。

■到達目標（学修成果）

実物資料を観察するためのマナーや方法を学び実践できる。また、観察した結果を整理し、記録する方法を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾文化学科の専門必修科目で服飾文化学科の専門必修科目で卒業要件科目です。演習授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスの確認	10分
2回	国内外の博物館コレクションについて	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
3回	実物資料をもとに製作されたトワルの着装と観察 －ヨーロッパの衣装－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
4回	実物資料をもとに製作されたトワルの着装と観察 －アジア他の衣装－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
5回	観察時のマナー 作品の取り扱い、事前の訪問先への相談、申請書の作成と提出、観覧後のデータ作成と提出	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
6回	観察時の使用機器の紹介 繊維製品用の顕微鏡、厚みの計測器、計測時の固定材料など	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
7回	観察時の使用機器の実践 繊維製品用の顕微鏡、厚みの計測器、計測時の固定材料など	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
8回	実物資料鑑賞シミュレーション（1）	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
9回	実物資料鑑賞シミュレーション（2）	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
10回	実物資料研究目的シート作成	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
11回	実物資料観察－博物館の所蔵資料の観察（1）－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
12回	実物資料観察－博物館の所蔵資料の観察（2）－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
13回	観察結果報告書作成（1）	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
14回	観察結果報告書作成（2）	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
15回	実物資料をもとに学ぶことの意味についてディスカッション （アクティブラーニング）	予習：ディスカッションの準備	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内容に応じて用意する課題レポートについては、添削やコメントを付して返却します。（manaba等利用）

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献 必要に応じて授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室 初回授業でお知らせします。

■備考 状況により、日程や内容を変更する場合があります。

日本服飾文化史

梅谷 知世

2年 前期 必修 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アジアの東端に位置する日本は、古くから中国をはじめとする諸外国の影響をうけながら、独自の美意識に基づく豊かな服飾文化を作りだし成熟させてきました。この授業では、服飾・染織品の実物資料、文献資料、図像資料などを用いて原始・古代から近代にいたる日本服飾の移り変わりを概説します。さらに、各時代の服飾の特質を政治や社会との関係、造形性、美意識、同時代の演劇・美術・文芸との関連性、外国文化の影響などさまざまな視点から捉え、服飾の多様なあり方について考えます。講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標（学修成果）

- 1、原始・古代から近代までの日本服飾の移り変わりを理解し、説明することができる。
- 2、各時代の服飾の特質について、同時代の資料に基づいて理解し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。学芸員課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日本服飾文化史の視点	予習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	縄文・弥生時代の服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
3回	古墳時代の服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
4回	飛鳥時代の服飾：服制のはじまりと唐風摂取	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
5回	奈良時代の服飾：衣服令と唐風服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
6回	正倉院の服飾・染織	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
7回	平安時代の服飾（1）：和様の開花	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
8回	平安時代の服飾（2）：重ね色目	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
9回	鎌倉・室町時代の服飾：武家服飾の成立と発展	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
10回	小袖服飾の成立	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
11回	安土桃山時代の服飾：武家服飾の変容と南蛮服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
12回	江戸時代の服飾（1）：武家服制の確立と町人服飾の充実	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
13回	江戸時代の服飾（2）：小袖の開花	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
14回	近代の服飾：西洋服飾の導入と和装の近代化	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容の振り返りを行い、十分理解する。	150分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の課題（授業内容の復習）について、次回授業時にフィードバックを行います。質問は随時受け付けます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

増田美子編『図説日本服飾史事典』（東京堂出版） 増田美子監修『ビジュアル日本の服装の歴史①②③』（ゆまに書房）
その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。 研究室：研究棟4階6042A

■備考 博物館や美術館に積極的に足を運び、服飾・染織の実物遺品や絵画作品など図像資料を見学する機会を持つよう心がけて下さい。

ファッション史

鈴木 桜子

2年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

近現代のファッションの歴史をどのような史観で捉えていくのか。本授業では近代の芸術運動、デザイン運動との連関の中で捉えていきます。これは時代衣服の形象、素材、色彩、技術、産業等の各視点から迫ることになり、その背景にある時代精神を捉えていくことに繋がります。なぜその時代にそのようなデザインで新しく衣服が生まれていくことになったのか、時代が生んだ衣服デザインについて考えていきます。

本科目は服飾学部共通にも設けられている必修科目ですが、服飾文化学科の場合は学科独自の学びの4分野の一つとして授業の進め方が他学科と異なるものになります。

■到達目標（学修成果）

時代の造形思考を学ぶことによって、学生一人ひとりが衣服に対する、デザインに対する考え方が持てるようになること、尚且つこれからの衣服の在り方について、多様な視点で見据えていこうとするきっかけが持てるようになることが本授業の到達目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修であり卒業要件科目です。1年次の必修科目「西洋服飾文化史」と合わせて服飾史として通史が完成される内容になっています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 現代ファッションの100年	シラバスの確認	20分
2回	I. デザイン運動とファッション① ジャポニスム	復習：第2回補足ノート*の作成	30分～
3回	② 改良服運動	復習：第3回補足ノートの作成	30分～
4回	③ アール・ヌーヴォー	復習：第4回補足ノートの作成	30分～
5回	④ ウィーン工房	復習：第5回補足ノートの作成	30分～
6回	⑤ ロシア構成主義とデ・スタイル	復習：第6回補足ノートの作成	30分～
7回	⑥ バウハウス	復習：第7回補足ノートの作成	30分～
8回	II. モードの革新者たち① マドレーヌ・ヴィオネ	復習：第8回補足ノートの作成	30分～
9回	② ガブリエル・シャネル	復習：第9回補足ノートの作成	30分～
10回	③ エルザ・スキヤパレリ	復習：第10回補足ノートの作成	30分～
11回	戦後のモード ディオールからサンローランまで	復習：第11回補足ノートの作成	30分～
12回	モードの多様化 アンチ・モード	復習：第12回補足ノートの作成	30分～
13回	日本人デザイナーたち	復習：第13回補足ノートの作成	30分～
14回	北欧デザインとファッション	復習：第14回補足ノートの作成	30分～
15回	まとめ プレゼンテーション（授業を振り返って）	予習：プレゼン準備	60分～

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業の進行状況にあわせて、授業ノート、補足ノートに関する評価をし、授業内でフィードバックをしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※授業ノート、補足ノートの提出、プレゼン

■教科書

Web教材：塚田耕一・鈴木桜子「ファッション史年表：現代ファッションの100年」

（杉野学園衣裳博物館 HP：www.costumemuseum.jp）*プリントとして配布もします。

■参考文献 授業内容に応じて紹介します。

■オフィスアワー・研究室 初回の授業でお知らせします。

■備考 *補足ノート=各回の授業ノートを基に、各自で学びを深めていくための補足学習

アパレル素材論

徳田 貴美江

2年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門必修科目で、卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	必要時間
		具体的内容（予習・復習等）	
1回	ガイダンス ビデオ視聴	（予習）衣服材料学で学んだ内容を復習する	30分
2回	何を着ているのか 素材について 繊維→糸→布の製造プロセス	（予習）衣服材料学で学んだ内容を復習する （復習）自分の着ている衣服の素材を調べる	30分
3回	布の分類 織物とは 織物の三原組織	（復習）身の回りにある布製品から、織物でできているものを見つけ、三原組織でできているものがあるか確認する。	60分
4回	織物の種類と織物組織 規格、物性について	（復習）身の周りにある布製品から、織物でできているものを見つけ、三原組織以外の組織で作られているものがあるか確認する。	60分
5回	綿について 綿織物	（復習）綿織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。手触りや風合いを観察する。	30分
6回	綿織物	（復習）綿織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。着用する季節や場面を考え、繊維や生地の特徴がどう活かされているのか考える。	30分
7回	ウールについて ビデオ視聴 毛織物	（復習）毛織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。毛織物と毛織物調の生地があるので、手触りや風合いを観察する。	30分
8回	毛織物	（復習）毛織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。着用する季節や場面を考え、繊維や生地の特徴がどう活かされているのか考える。	30分
9回	絹と化繊について 化繊織物 中間まとめ	（復習）絹織物や化繊織物を市場調査し、手触りや風合いを確認する。どのような場面で使用されるのかを考える。	30分
10回	ニット 緯編	（復習）ニットの構造を立体的に捉える。また、ニット製品を調査し、特徴を理解する。	30分
11回	ニット 経編・レース	（復習）緯編との違いを理解するための市場調査をする。身近にある経編の製品を観察し、特徴を理解する。	30分
12回	不織布・皮革	（復習）革製品（含む人工皮革等）を市場調査し、風合いを確認する。自分の持っている革製品（含む人工皮革等）を観察し、特徴を捉える。	30分
13回	染色・加工	（復習）市場調査や自宅で、授業内で聞いた技法に該当する衣服がないか確認し、観察する。	30分
14回	産地・復習	（復習）全国にある産地を復習する。	90分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等） のフィードバックを行う	（復習）授業内容を振り返り、まとめをする。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了時に manaba を用いた小テストを行い、翌週答え合わせをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「アパレル素材の基本」織研新聞社

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

初回授業時に提示（連絡研究室：テキスタイルデザイン研究室）

■備考 なし

CAD パターンメイキング

井口・多恵子

2年 前期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

CAD (Computer Aided Design) の基本操作を学び、平面パターン設計を学修することを方針とします。CAD の簡単な操作方法から学び、パターン設計→アパレルでの流れも学修します。

■到達目標 (学修成果)

CAD の基本操作とアパレルに必要な総合的な CAD システムの使用方法を修得する事を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については、必修科目であり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、CAD の基本説明	予習：シラバスを読んでおくこと パソコンによる手慣らし	30分
2回	CAD の基本操作	予習：パソコンによる手慣らし	30分
3回	ダーツ展開 1 (基本) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
4回	ダーツ展開 2 (応用) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
5回	袖 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
6回	ギャザー (身頃) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
7回	ギャザー (スカート) 1 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
8回	ギャザー (スカート) 2 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
9回	前半の復習	予習：前半の整理、再確認しておく	30分
10回	キュロットスカート ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
11回	工業用パターン 1 (パーツ化) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
12回	工業用パターン 2 (縫い代付け)・小テスト マーキング (グループワーク)	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
13回	グレーディング (スカート) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
14回	まとめ 1	予習：全体を整理、再確認しておく	30分
15回	まとめ 2	予習：全体を整理、再確認しておく	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業の後半に、その回学んだことを復習の意味で小テストします。小テストは教員が添削し、次週返却し学生はそのデータの確認を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	25%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 配布プリント

■参考文献 パターンメイキングの原理 (大野順之助著)

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日時は初回の授業時にお知らせします。研究室 (第3校舎2階 3211)

■備考

CAD は自宅では使用出来ないコンピューターソフトのため、授業時間内に行うことをしっかり覚えていくこと、また欠席しないことをお奨めします。また進度により日程及び内容を変更することがあります。

レプリカ製作(民族衣装)

菅野 ももこ

2年 後期 必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

世界各国、各地域には、その土地の気候や信仰にあわせて、多様な発展を遂げてきた衣装が存在します。本授業では、①自然から身を守るという原始的な目的、②限られた素材を余すところなく使用する合理的な製作方法、③各地域で異なる信仰の意識が反映された装飾表現について理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

いくつかの国や地域の衣装について、実物または先行研究で紹介されている展開図をもとにレプリカを製作する。更に、その過程で得られる服を作るための様々な方法を習得し、新たな創造の糧となるよう理解を深める。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾文化学科の専門必修科目で卒業要件科目です。実験実習授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション －異国へ向けられた眼差しの歴史－	予習：シラバスの確認	10分
2回	自然から身を守るための衣服の形について学ぶ	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
3回	合理的に素材を活用した衣服の形について学ぶ	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
4回	合理的に素材を活用した衣服の形の再現を試みる －製作対象とする資料の選定－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
5回	合理的に素材を活用した衣服の形の再現を試みる －紙を使用しての試作－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
6回	合理的に素材を活用した衣服の形の再現を試みる －型紙作成－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
7回	合理的に素材を活用した衣服の形の再現を試みる －裁断と縫製－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
8回	合理的に素材を活用した衣服の形の再現を試みる －製作した資料の試着と観察－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
9回	信仰を表した紋様について学ぶ	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
10回	信仰を表した刺繍による紋様の部分的再現を試みる －製作対象とするアジアまたはアフリカの資料の選定－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
11回	信仰を表した刺繍による紋様の部分的再現を試みる －図案と技法の観察－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
12回	信仰を表した刺繍による紋様の部分的再現を試みる －製作（1）－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
13回	信仰を表した刺繍による紋様の部分的再現を試みる －製作（2）－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
14回	信仰を表した刺繍による紋様の部分的再現を試みる －製作した資料の観察と講評－	復習：授業を振り返り、授業内で取り組んだ課題について考える	30分
15回	レプリカ製作を通じて学ぶことの意味についてディスカッション（アクティブラーニング）	予習：ディスカッションの準備	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内容に応じて用意する課題レポートについては、添削やコメントを付して返却します。（manaba等利用）

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献 必要に応じて授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室 初回授業でお知らせします。

■備考 状況により、日程や内容を変更する場合があります。

民族衣裳論

梅谷 知世

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

世界各地の民族服飾はそれぞれの自然環境や文化環境の中で生まれ、時代とともに変化しながら今日に受け継がれてきました。この授業では、アジアを中心にアメリカやヨーロッパなど世界の民族服飾を取り上げ、人びとの手仕事によってつくられてきた民族服飾の形、素材、織・染め・刺繍などの技法、文様について学びます。また、民族服飾がどのような背景の中で成立し変化してきたのか、そして、民族服飾が民族にとってどのような意味をもつのかという問題について、背景にある気候風土や暮らし、信仰、異文化交流など多様な視点から考えていきます。

講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標（学修成果）

- 1、民族服飾の多様なあり方を知り服飾文化に対する視野を広げる。
- 2、民族服飾の成立・変化と自然環境・文化環境との関係性や、民族服飾の意味について理解する。
- 3、民族服飾を通して世界の異文化への関心を深める。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	民族服飾とは何か	予習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	民族服飾を学ぶ視点	予習：参考文献を図書館で確認する。	90分
3回	アメリカの民族服飾（グアテマラ）	予習：グアテマラの気候風土とマヤの歴史を調べる。	90分
4回	東アジアの民族服飾（中国・旗袍）	予習：近代中国の歴史について調べる。	90分
5回	東アジアの民族服飾（中国・少数民族）	予習：中国の少数民族の居住地域を確認する。	90分
6回	博物館見学	復習：博物館見学のレポートを作成する	120分
7回	東アジアの民族服飾（アイヌ）	予習：アイヌ民族の歴史について調べる。	90分
8回	東アジアの民族服飾（琉球）	予習：琉球王国と近現代沖縄の歴史について調べる。	90分
9回	東南アジアの民族服飾（ラオス）	予習：ラオスの気候風土と歴史について調べる。	90分
10回	南アジアの民族服飾（インド）	予習：インドの気候風土と歴史・宗教について調べる。	90分
11回	南アジアの民族服飾（インド西部）	予習：インド西部の気候風土について調べる	90分
12回	西アジアの民族服飾（サウジアラビアなど）	予習：西アジアの気候風土と宗教について調べる。	90分
13回	ヨーロッパの民族服飾（スコットランド）	予習：スコットランドの気候風土と歴史を調べる。	90分
14回	ヨーロッパの民族服飾（東欧）	予習：ブルガリアとルーマニアの気候風土と歴史を調べる。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容の振り返りを行い、十分理解する。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内課題や期末レポートについて、フィードバックを次回授業時、またはmanabaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

国立民族学博物館編『国立民族学博物館展示案内』（2017） その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室 研究室：研究棟6042A オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。

■備考 世界各地の民族に関心を持ち、新聞やインターネットの報道に注意するようにしてください。美術館や博物館に足を運び、民族服飾の実物を見学する機会を持つよう心がけてください。

ファッションと環境

和田 早苗

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

環境という側面からファッション（衣服）を取り上げて、製造される過程や使用時、廃棄の際に環境へどのような影響を与えているのかを考えていきます。

■到達目標（学修成果）

ファッション（衣服）と環境について、生産者側と消費者側の両方の立場に立って自分なりの考えを持ち、意見を共有して他者の意見から様々な考え方や見方について学び、自分の考えを深めることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は服飾文化学科の専門必修科目で卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 環境とは	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
2回	SDGs とファッション (1)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
3回	SDGs とファッション (2)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、小レポートを作成する。	30分
4回	SDGs とファッション (3) 小レポートの発表	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
5回	衣服の原材料の面から環境を考える (1)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
6回	衣服の原材料の面から環境を考える (2)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
7回	衣服の生産過程から環境を考える (1)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
8回	衣服の生産過程から環境を考える (2)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
9回	衣服の着用と環境への影響	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
10回	衣服の廃棄と環境への影響	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
11回	生産者側から環境とファッションを考える	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
12回	消費者として環境とファッションを考える (1)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
13回	消費者として環境とファッションを考える (2) 環境ミニレポート	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
14回	消費者として環境とファッションを考える (3)	復習：授業で取り上げた内容をふり返り、整理する。	30分
15回	まとめ	これまでの授業をふり返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内提出物は次の授業内でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし。必要に応じて資料を配布します。

■参考文献

授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業で紹介します。

■備考

授業の進捗により授業計画が変更となる場合もあります。

ユニバーサルファッション論

笹崎 綾野・柘 伸江

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ユニバーサルファッションとは、年齢や性別、体型、身体機能、障害等にかかわらず、すべての生活者がファッションを楽しめる社会づくりを目指した概念である。ライフスタイルの変化に伴い、ファッションへのニーズが多様化する中、より多くの生活者が快適な衣生活を実現できるファッション市場の形成が求められている。本科目では、多様性が顕著な高齢者・障害者を対象とし、体型特性と衣服の関係性、実務経験を基にしたデザインによる障害者支援の事例など、ユニバーサルファッションについて幅広く講義する。

■到達目標（学修成果）

・「ユニバーサルファッションの基礎知識」を得るため、高齢者や障害者の身体特性や生活行動を理解し、ユニバーサルファッション（衣服）の工夫として提案できる。

・障害者支援に関する知見を広げるため、社会やファッション産業の課題を発見し、障害者支援におけるデザインの可能性について説明できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

服飾文化学科専門必修の講義科目で卒業要件科目である。服飾文化に係る幅広い知見を得ることを目指している。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション/ユニバーサルファッションとは	復習；ユニバーサルファッションの理念と7原則の確認	1時間
2回	高齢者・障害者の体型特性と衣服設計	復習；高齢者・障害者ファッションの事例収集	2時間
3回	ユニバーサルファッションの工夫【課題A】	予習；【課題A】についてまとめる	3時間
4回	高齢者・障害者の精神特性とファッション事情	復習：高齢者・障害者の特性についてまとめる	1時間
5回	高齢者・障害者支援とファッション	復習：身の回りの事例を考察する	1時間
6回	障害者アートとファッション①	復習：障害者アートとファッションに関する事例収集	1時間
7回	障害者アートとファッション②	復習：障害者アートとファッションに関してまとめる	1時間
8回	障害児の特性とファッション事情	復習：身の回りの事例を考察する	1時間
9回	リメイクとユニバーサルファッション	予習：リメイクの事例収集	1時間
10回	ファッション産業のユニバーサルデザイン①（企画）	復習：企画の流れについて確認	1時間
11回	ファッション産業のユニバーサルデザイン②（製造）	復習：製造の流れについて確認	1時間
12回	ファッション産業のユニバーサルデザイン③（販売）	復習：販売の流れについて確認	1時間
13回	SDG'sとユニバーサルファッション	予習：SDG'sとユニバーサルファッションに関する事例収集	1時間
14回	ユニバーサルファッションの提案【課題B】	復習：【課題B】についてまとめる	3時間
15回	【課題B】発表と授業のまとめ	予習：発表準備	1時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

第3回授業、第15回授業にて課題の振り返りを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて、プリントを配布する。

■参考文献

見寺貞子・笹崎綾野『ユニバーサルファッション - おしゃれは心と身体のビタミン剤 - 』織研新聞社 2020

■オフィスアワー・研究室

教務課、講師控室

■備考

なし

現代ファッション論

鈴木 桜子

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「ファッションとは何か？」この問いに答えるのは容易ではありません。ファッションは私たちにとって最も身近な存在でありながら、個人と社会、歴史、文化、思想等のあらゆる領域と複雑に絡み合いながら現在に至っています。

本授業では、衣服と直接的な身体との関係、社会現象としての流行とメディアとの関係、様々な視点からファッションの現在の意味を問う展覧会に焦点をあて、「ファッション」について深く考えて行くことを方針とします。本授業はディスカッション、学生同士の相互評価、プレゼンテーションによるアクティブラーニングを重視しています。

■到達目標（学修成果）

「ファッション」について、ディスカッションを通して自らのファッション論を導き出すことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は必修科目であり、卒業要件科目です。ファッションに関する多角的な視点を持ちながら専門性を高めていくための科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「ファッション」を考える なぜ衣服を着るのか	予習：シラバスの確認	10分
2回	I. ファッションと身体 ①コルセット	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
3回	②化粧	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
4回	③女性の服・男性の服	復習：前回授業ノートの確認 +関連事項の調査	40分
5回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
6回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
7回	II. ファッションとメディア ①ファッション写真	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
8回	②ファッション雑誌	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
9回	③かわいい世界	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
10回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
11回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
12回	III. ファッションと展覧会①「ファッションと色彩」展	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
13回	②「ラグジュアリー」展	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
14回	③「○○○○○」展	復習：前回授業ノート確認 +関連事項の調査	40分
15回	プレゼンテーションと評価(フィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッション時のレポート、プレゼンテーションについては、受講者同士で評価をしあい、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション&授業内レポート2回+プレゼンテーション1回

※上記についての受講生同士の相互評価

■教科書 毎回プリントを配布します。

■参考文献 適宜授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

沢山の服飾関連の授業を受講している皆さんにとって大事なことは、時に立ち止まり、物事を深く考える時間を持つことです。現在、ファッションについて社会学や哲学の立場から論じられている書物が数多く出版されています。それらをヒントに日頃からファッションについて深く考えてみましょう。

マーケティング・データサイエンス論

田中 康寛

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

今や企業においては必須であるデータサイエンスとは何かを理解し、ビジネスにおける重要性を理解していきます。企業へのアドバイス経験から、DXと関連づけながら事例も、また企業データを使い説明、研究します。特にマーケティング活動を中心に学んでいけるようにします。

- ・データサイエンスとは、そして必要性の背景そして生み出されるビジネス価値と活用事例
- ・統計学とAI、生成AI/深層学習（ディープラーニング） ・データサイエンスの倫理的留意 ・発展的課題と今後の方向性

■到達目標（学修成果）

データサイエンスとは何かを理解し、企業が、どのように活用していくかを検討できるようにします

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	データサイエンスとは何か。DXとは何か。それらがなぜ必要か(含:事例)を、コンサルティングを企業に実施した経験からも話します	復習:データサイエンスとは何か、DXとは何かを自分の言葉で説明できるようにします	60分
2回	データサイエンスによるビジネス価値と活用事例 DXとデータサイエンスの関連を含みます	復習:データサイエンスをどのように生かせるか。説明できるように復習を行います	60分
3回	データサイエンティストとはどのような役割や業務を遂行しているかを理解 そして第15回で出てくる組織論も、より理解できることを目指します	復習:データサイエンティストの役割業務を理解することで、データサイエンスにおける実行内容を理解します	90分
4回	統計基礎 統計の必要性、データとは?さらに見える化などを理解します。 併せて多様なデータが発生していることも理解します	復習:統計の基本を理解します。また、自分の周りでも様々なデータが発生していることを確認します	90分
5回	AIとは何か 生成AIとは何か(以降両方を総称してAIと表記します)	復習:AIとは何かを説明できるようにします。AIが身近であることも整理します	45分
6回	AI事例 小売業、アパレル業界などでいかにAIが使われているか。なぜ今AIを活用されているのかを説明します まとめ1	復習:対象業種でのAIの利用状況を復習するとともに、なぜ必要かも自分の言葉で説明できるようにします。	90分
7回	統計概論1 Excelを使用して学びます マナバで、メーカーのデータをやり取りして使います。平均、確率、分散 標準偏差 回帰分析 生成AIを使用して、分析する場合の方法もイメージするようになります	復習:それぞれの分析の意味と必要性を整理します。また生成AIを使用する場合のイメージも整理します	40分
8回	統計概論2 Excelを使用して学びます。 正規分布 相関分析 定性データの定量化分析	復習:それぞれの意味を再度整理します。そしてなぜその分析が必要かを考えます	60分
9回	BIツールとは何か Tableauを中心に説明します	復習:Excel BIツールの位置付けを理解、整理し、さらにビジネス界での使い方の基本を説明できるようにします	45分
10回	Tableauを使った実習	復習:体感したことから、Excel,Tableauの違いを整理します	45分
11回	BIツールと生成AIの融合(実技予定) AIを使用するどのようなことができるかなどをお話します	復習 AIへの理解を深め AIを使ったとするとどのようなことが可能かを考えます	60分
12回	データ収集の現状 IOT、顔認証など 現状と将来像を説明します	復習:企業内にどのようなデータがあるのか、どのようなデータがあるといいのか整理します	60分
13回	アパレルメーカーのデータをもとに討論と発表 どのようなデータが経営に役立つかなどを中心に討論します	復習:グループの発表から、さらにデータに対する視点を整理します	45分
14回	まとめ2 データサイエンスの倫理	復習:個人情報保護法などデータに関するセキュリティを整理します	60分
15回	データサイエンスとDX、実現していくための組織論を理解していきます。 その中で、自分ごと化をしていきます	復習:データサイエンス、DX、AIなどを総括して復習します	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

まとめを2回実施提します。提出用紙に、評価と課題を記述し返却、同時に返却した回の初めにフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題	70%
期末試験・課題	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書 データ思考が未来を変える（織研新聞社） 加えて必要に応じて補足資料配布

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

講師控え室または教室に在籍

■備考 企業の上層部の方から、その業界、企業ならではの視点で話をいただきます（V I D E O）

画像設計演習

白木 ゆみ香

2年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

画像設計演習での使用ソフトは、Photoshop、4D-BOX（素材設計）、Power Point の計3つです。それぞれのソフトの基本操作や特徴を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得し、表現力の拡大を図ります。

■到達目標（学修成果）

それぞれのソフトを活用し、連動させながら、デザイン考案やプレゼンテーションが出来る技術を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門選択科目で卒業要件科目の単位となります。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 4D-BOX（素材設計） 基本操作 ポルカ	予習：シラバスを読む。 復習：ノートの整理。	30分
2回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 ストライプ、MIX	復習：ノートの整理。	20分
3回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 織り柄	復習：ノートの整理。	20分
4回	ブランド立案に向けてのデザイン出し①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	20分
5回	ブランド立案に向けてのデザイン出し② ハンガーイラスト5体	復習：ノートの整理。	20分
6回	ブランド立案に向けてのデザイン出し③ ハンガーイラスト5体	復習：ノートの整理。	20分
7回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
8回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
9回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
10回	Photoshop 絵型の色や柄のバリエーションを作成。	復習：ノートの整理。	20分
11回	Power Point 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
12回	Photoshop テキスタイルのレイアウト、画像作成。	予習：資料準備。	20分
13回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	30分
14回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：プレゼン準備。	60分
15回	Power Point 各自の作品をプレゼンテーション。	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・作品課題の提出は、PC 関係はデスクトップ上の配布提出 BOX ヘデータでの提出。
指定された日時までに提出のこと。元データは各自で保存しているため、返却はなし。
- ・試験はなし。
- ・プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じてデジタルテキストや資料配布。

Fashion Ruler（教材）は各自購買部にて購入してください。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

【前期】木 14:30~16:00 【後期】水 15:30~16:30

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考

進度により、日程および内容の変更あり。

写真表現演習

中野 希大

2年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

写真は誰でも撮ることができますが、思い通りの表現をするにはカメラのコントロールができなければなりません。またコンピュータによるフォトレタッチの技術は、クリエイターの世界観を具体的にイメージ化することを可能にしました。この授業では撮影とフォトレタッチの基本技術を、実践的な演習（撮影・データ制作）を通して学びます。

■到達目標（学修成果）

①カメラの基本的な仕組みを理解し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。

②Photoshop、Illustratorの基本的な操作方法とフォトレタッチ技術を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目となります。服飾文化において、イメージ発信者の基礎知識として生きる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Introduction1 オリエンテーション	復習：レポートの内容を考えておく。また、カメラの準備をする。	60分
2回	Theme1 焦点距離（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：焦点距離によるイメージの違いの確認、カメラ操作に慣れておく。	30分
3回	Theme1 焦点距離（2）	復習：焦点距離を意識した応用課題に取り組む。	60分
4回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：露出決定メカニズムの理解とカメラ操作に慣れておく。	30分
5回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（2）	復習：露出を意識した応用課題の撮影に取り組む。	60分
6回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：光を意識した露出や色の理解、カメラ操作に慣れておく。	30分
7回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（2）	復習：光と色を意識した応用課題の撮影に取り組む。	30分
8回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	予習：スチルライフの課題に必要な素材を準備する。	60分
9回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（2）	復習：テーマを決めて応用課題の撮影に取り組む。	60分
10回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（1）	予習：雑誌の表紙に使用する写真素材を準備する。	60分
11回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（2）	復習：レタッチを行い、各自のイメージに合わせた画像制作に取り組む。	30分
12回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（3）	復習：雑誌の表紙デザインの仕上げに取り組む。	30分
13回	Theme6 スタジオライティング（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：ライティングによるイメージの変化を確認し、効果を理解する。	30分
14回	Theme6 スタジオライティング（2）	復習：撮影した写真の違いを確認し、課題レイアウトに取り組む。	30分
15回	学習のまとめ、課題の整理・提出	予習：これまでの全ての課題を整理し、提出の準備をしておく。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題については、授業内講評あるいは返却時にコメントを添付する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	レポートと基本課題作品 50%、応用課題作品 20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 特に指定しない。

■参考文献 写真の教科書、Photoshop、Illustratorの入門書など、各自のスキルに合わせて持っているといよい。

■オフィスアワー・研究室

前期：月・火曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

後期：木曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

■備考

- デジタルカメラを各自で用意すること。一眼レフやミラーレスを推奨する。標準ズームレンズが望ましい。コンパクトデジタルカメラは推奨しない。スマートフォン、トイカメラ、フィルムカメラは基本課題ができないので使用不可。購入等についての相談は初回授業後に受け付ける。ただし、第2回から使用するので必ず用意できるように予め検討しておくこと。
- 教室のプリンタ使用は原則として授業時間内に行うこと。

立体造形演習

大塚 武司

2年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションに関わるクリエイティブな現場では、立体造形力が役に立ちます。その力を磨くため、自然物の観察と、自分なりの美しさを考察します。この授業では、金属彫刻を国内外でアートフェアや個展で作品発表し、環境造形、メディアや店舗/空間デザインなどを手掛ける教員がその経験を生かし実施します。

■到達目標 (学修成果)

この科目の目的を達成すれば、立体造形への理解と、オリジナル性高い造形能力を身に付けることができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	「立体造形演習」授業内容についてのガイダンスと小演習	予習：次回課題の準備	90分
2回	課題① ケント紙による美しい陰影のレリーフ作品/制作開始	復習：デザインバリエーションの確認 予習：ブラッシュアップの準備	90分
3回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
4回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
5回	課題② 紙素材による自然物の立体作品演習/制作	復習：モチーフの観察 予習：次回制作に向けて予習	90分
6回	制作(大まかな造形完了)	復習：作品制作過程 (段取り) の確認 予習：次回制作に向けて予習	90分
7回	制作(ブラッシュアップ)/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
8回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
9回	課題③ スチレンボードの積層による立体造形の演習/制作	復習：デザインバリエーションの確認 予習：次回課題の予習	90分
10回	制作	復習：作業内容の復習 予習：次回制作段取りの予習	90分
11回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
12回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
13回	課題④ 粘土造形の演習 (自然物の観察として手の摸刻) 制作	復習：粘土の扱い方法の復習 予習：動きのあるポーズの考察	90分
14回	制作 (骨格や表情の観察、自然の造形美を表現)、作品提出	復習：粘土の扱いや観察した内容の復習 予習：プレゼンテーションの準備	90分
15回	作品プレゼンテーション/講評、立体造形のまとめと片付け	復習：講評内容と全授業内容の確認	90分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題ごとに提出作品のディスカッションを行い採点、返却する。授業時間外の質問は、Eメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて資料を配布します

■参考文献

授業内にて適宜紹介します

■オフィスアワー・研究室

授業前後は3 4 1 3または講師控室。それ以外の時間帯は教務まで連絡してください。

■備考

必要な材料や筆記用具、画材などは各自で用意していただきます。

水粘土とそれに伴う用具はこちらで用意します。

授業内容は進度により変更することがあります。

定員：演習授業につき25名程度とし、大幅に超える場合は調整することもあります。

和服構成論・実習Ⅰ

平塚 由美子

2年 前期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対する感心を深め、次世代へと継承する力を養う。

■到達目標（学修成果）

和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	和服（平面構成）の特徴・和服の基礎知識と名称の説明 大裁ちひとえ長着（ゆかた）製作について、各部の名称 基本的なことについての説明（男物の違いなど）運針用布、 基礎縫い等の用布の裁断、基礎縫い見本標の作成の説明	予習 教科書と和服の基礎知識(P14～21) 浴衣の仕立て方(P.54～61)を読む 和裁用具を準備する。 基礎縫い見本標の作成準備	30分
2回	年間授業計画、用具の説明、運針についての説明、練習 （授業初めに10分間運針をする）基礎の縫い方・止め・くけ について説明し基礎縫い用布に正確に作成	予習 基礎縫い(P.50～53)を読む 復習 運針の練習	30分
3回	基礎縫い見本標を完成させ次週提出 ゆかたの下準備の説明(水通し・地直し・検品等)	復習 基礎縫い実習予定まで終了 運針の練習	30分
4回	学生の各自の採寸（寸法表に記入し毎回必ず持参する） 各自の寸法にてゆかたの柄合わせ・折り積みをする	復習 基礎縫い実習予定まで終了 浴衣地用意	30分
5回	地直しをした後、身頃と袖・おくみの柄合わせをし裁断。 袖のしるしつけをする。	予習 裁ち方教科書(P.62～65)を読む ゆかたは水通しをしてくる。	30分
6回	袖縫いに入る・袖の丸み型の作成、丸みの縫いちぢめ 丸みの始末と袖底の始末の説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69) 袖の縫い方教科書(P.72～73)を 読む	30分
7回	袖口の三つ折りくけの説明と袖の完成	復習 袖縫い実習予定まで終わらせる	30分
8回	身頃の縫い方の説明（各自の寸法を確認）としるしつけの 説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69)を 読む 両袖提出の準備	30分
9回	身頃のしるしつけ 背縫いについて説明と実習（二度縫い） 内揚げの説明 袖二枚完成させ（右・左）提出	予習 背縫い教科書(P.74～75)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
10回	背縫い・内揚げの完成	復習 背縫い・内揚げ実習予定まで 終わらせる	30分
11回	脇縫いの説明と縫代の始末の仕方の説明	予習 脇縫いの始末教科書(P84)を読む	30分
12回	脇縫いと縫い代の始末の完成 衿と上前身頃の柄合わせ	予習 肩当てつけ教科書(P.75～76) いしき当てつけ教科書(P.77) を読む	60分
13回	肩当て、いしき当ての説明と完成 衿と衿を切り離す	復習 試験問題の学習 持ち物 浴衣と半幅帯 腰ひも2本	60分
14回	ペーパーテスト（確認テスト） 浴衣の着装体験（各自浴衣持参、予備の浴衣等有り）	復習 自分で浴衣を着てみる	60分
15回	前期授業のまとめ（前期授業予定表と運針表の提出） テストの返却と答え合わせ 衿の印付け後身頃に縫い付ける	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

前期授業の感想の講評と定期試験の解説は後期授業初回に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)毎週の運針練習による 個別の進捗状態の記録、作品の評価ペーパーテストの成績などにより 総合的に評価する。前期授業内で運針上達の習熟度テストを実施する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有) 創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考 実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること

和服構成論・実習Ⅱ

平塚 由美子

2年 後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

実習Ⅰ(前期)の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服に関しての技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。

■到達目標(学修成果)

実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着(ゆかた)の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	前期に引き続き浴衣の制作実習。 おくみしるしつけの確認とおくみつけ	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
2回	おくみ付けの完成と縫いしろ(耳ぐけ)の説明 衿下(三つ折ぐけ)の始末と額縁の作り方の説明	予習 衿下から裾回しの三つ折りぐけと 額縁のつくり方教科書(P.85)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
3回	おくみと衿下～裾周りの三つ折りぐけの完成	復習 実習予定まで終わらせる	30分
4回	掛け衿の柄合わせ、衿と掛け衿のしるしつけの説明 本衿にかけ衿を付ける	予習 衿つけ 教科書(P.79)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
5回	各寸法を確認して衿つけの待ち針打ちについて説明、 三つ衿芯の作成	予習 三つ衿芯入れ 教科書(P.80)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
6回	身頃の衿肩回りの印付けをしてから身頃に衿をつける (印と印を正確に合わせる) 三つ衿芯入れ、衿幅を整えてしつけをかける	予習 衿先の始末 教科書(P.81)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
7回	衿先の作り方(男物・女物) 衿ぐけ(本ぐけ)の完成	予習 袖つけ 教科書(P.86)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
8回	袖つけの説明と作成 袖の振り(女物)と人形(男物)の説明	予習 教科書(P.72～73)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
9回	肩当ての始末 袖付けの完成と仕上げ	予習 肩当ての始末 教科書(P.87)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
10回	総仕上げ 着物の畳み方と手入れの仕方	復習 実習予定まで終わらせる 予習 教科書(P.89)を読む	60分
11回	【着物学】和服の種類を見て触って学ぶ講義 第一回 寿ぎの和服・特別な着物 浴衣の提出開始	予習 教科書(P.14～43)を読む	30分
12回	第二回 おしゃれ着・遊び着としての和服 浴衣の提出	予習 教科書・配布プリントの範囲を覚える 復習 着物での立ち振る舞いを覚える	60分
13回	第三回 成人式・卒業式に着る和服 終了後講義のレポートを記入し後期授業予定表に感想を 書いて提出 確認テストの範囲 浴衣の提出期限	予習 自装の準備(腰ひも2本・半幅帯) 確認テストの勉強	30分
14回	確認テスト 各自製作のゆかたの寸法・柄合わせをチェックしながら、 自装・他装で着装して帯結びをし着心地を確認する	復習 家庭でもう一度着装してみる 準備 自由着装発表の準備	30分
15回	「私のきもの遊び」と題して制作した作品を個性を生かし 自由な発想で着てみる。授業のまとめと感想	着物を自由にアレンジして発表	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

授業内での実技テストと製作作品については14回目で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)、毎週の運針練習による個別の進歩の状態の記録、作品の評価、ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。
後期授業期間末に技術習得状況を確認するため、技術実習テストを実施する。

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有)創英社

■参考文献 和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先: 教務課(本校舎1階) 出講日: 火曜日

■備考 実習Ⅱは、実習Ⅰ(前期の課程)を修了していること。

衣服管理

三代 かおる

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は着用による汚れを回復させること(洗濯)と製品本来の性能を維持すること(手入れ、保管)を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。市販されている洗濯関連商品と衣服により、実生活と結びつけてイメージしやすいように実施する。

■到達目標(学修成果)

市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス 衣服管理とは 洗濯に関する知識の確認	予習:シラバスを読む。日常で使用している洗剤の確認をする。	20分
2回	衣服の汚れ 衣服の機能との関係	復習:授業資料の確認をし、衣服の機能を理解する。	30分
3回	水と洗剤 硬度成分の影響	復習:教科書を確認し、硬水の影響を理解する。	30分
4回	衣服の洗浄 洗浄に関わる要因	復習:教科書を確認し、洗浄に重要な要素を理解する。	30分
5回	界面活性剤 分類と構造 洗剤プリント提出	予習:家庭の洗剤成分を調べる。	30分
6回	配合剤 種類と作用	復習:教科書を確認し、界面活性剤と配合剤を理解する。	30分
7回	合成洗剤と環境 現在までの変化	復習:教科書を確認し、合成洗剤の変遷を理解する。総復習する。	120分
8回	中間試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
9回	洗浄のメカニズム	復習:教科書、配布プリントを参考にして、洗浄作用を理解する。	30分
10回	実験:界面活性剤の作用 レポート提出	予習:界面活性剤の作用を理解しておく。	30分
11回	家庭洗濯	復習:教科書を確認し、洗濯条件を理解する。	30分
12回	商業洗濯	復習:教科書を確認し、理解する。	30分
13回	漂白と増白	復習:教科書を確認し、漂白剤の使用法を理解する。	30分
14回	衣服の仕上げと保管	復習:授業内容すべての総復習をして理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)フィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

洗剤プリント、レポートを添削返却、解説、また授業内容課題も適宜行い理解度を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

増子富美ほか著、生活科学テキストシリーズ 被服管理学、朝倉書店、2012

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考 必ず教科書と配布資料を持ってくること。提出物の期日は守ること。

染色化学

中村 弥生

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は染色と加工によって、美しさ、快適さが与えられる。染色化学では、アパレル生産において染色加工がどのように行われるか、その方法としくみを学ぶ。また、消費性能としての染色物の堅牢性、染色加工を含むアパレル生産が地球環境や社会に与える影響について考える。さらに工芸染色の技法等についても学ぶ。

■到達目標（学修成果）

アパレル生産の流れを知る。染色や加工も含めた衣服づくり、染色堅牢性などの消費科学的な性能、染色加工による環境への影響などを考慮した衣服作りができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目。服飾を専門とする学生として必要な染料、染色加工等に関する基礎的な知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業についての概説	予習：シラバスを読み授業の概要を把握 復習：授業内容の確認	20分
2回	アパレル生産における染色加工工程①概要・準備工程	予習：アパレル生産の流れを把握 復習：染色加工前準備工程の確認	30分
3回	アパレル生産における染色加工工程②染色工程・浸染	予習：浸染とは何かを把握 復習：浸染の種類、方法を確認	30分
4回	アパレル生産における染色加工工程③染色工程・捺染	予習：捺染とは何かを把握 復習：捺染の種類、方法の確認	30分
5回	アパレル生産における染色加工工程④仕上げ工程	予習：仕上げ加工とは何かを把握 復習：仕上げ加工の種類と方法の確認	30分
6回	2～5回授業の確認テスト（資料映像視聴）	予習：2～5回授業の資料をまとめる 復習：染色加工工程の流れを確認	30分
7回	色素	予習：色が見えるしくみを把握 復習：異なる色に見える理由を確認	30分
8回	染まるしくみ	予習：染まるしくみを把握 復習：なぜ染まるのかを確認	30分
9回	染色物の堅牢性	予習：堅牢性とは何かを把握 復習：堅牢性評価の方法と応用を確認	30分
10回	7～9回授業の確認テスト（資料映像視聴）	予習：7～9回授業の資料をまとめる 復習：染まるしくみ、堅牢度試験を確認	30分
11回	工芸染色①	予習：工芸染色の種類を把握 復習：工芸染色の技法を確認	30分
12回	工芸染色②（資料映像視聴）	予習：地元周辺地域の工芸染色を調査 復習：工芸染色の現状を確認	40分
13回	染色加工による環境への影響①	予習：染色加工の環境への影響を把握 復習：染色加工の環境への影響を確認	30分
14回	染色加工による環境への影響②（資料映像視聴）	予習：自分のワードローブを調査 復習：環境への影響の現状を確認	40分
15回	グループワーク、まとめ	予習：2～14回授業の資料をまとめる 復習：授業内容整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manabaを使った授業前後のリアクションペーパーの提出により受講生は授業の予習・復習を行い、教員はコメントを返す。学生の疑問が解決できる内容の授業を展開する形でフィードバックを行う。確認テストの返却および解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しない 資料配布（各回の資料を前週に配付する。授業前に予習すること。）

■参考文献

授業内で提示

■オフィスアワー・研究室

連絡先：本校舎1階教務課（オフィスアワーに関しては初回の授業でお知らせします。）

■備考

- ①第1回目の授業で授業内容や受講に際しての注意などを説明します。必ず出席し、内容を十分理解してから受講して下さい。
- ②受講者数、授業進捗状況等により授業内容が多少変更になる場合があります。

映像制作

千代崎 寛

2年 集中 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

現在、最も身近な情報伝達手段となった映像は様々な分野で活用されている。この授業では日常の中で触れてきた映像を自らの表現手段のひとつとして位置づけ、制作を通じた体験と考察を行っていく。所属している学科や専門領域を横断する形でグループを編成し、共同作業のなかで短時間の映像作品を制作していく。～企画・撮影・編集・発表～ 4つのプロセスを互いに協力しながらひとつの作品に仕上げていく。映像メディアを“みてたのしむ”から“つたえる”立場へシフトすることでイメージを表現・伝達するための有効なツールとして捉え活用していく手がかりを得ることができる。この授業で体験したことをその後の専門領域と各自の研究に応用・展開し接続していくことを望む。

■到達目標 (学修成果)

1. 映像による表現は様々な分野に活かせる総合的な能力であり、情報リテラシー・伝達能力を意識することができる
2. 「何を」「どのように」「どうやって」伝えていくのかという命題をたて実証と経過を記録し経験することで有効な情報伝達手段である映像について「知る」ことができる
3. グループワークによる相互の役割とコミュニケーションを通じ映像表現を理解することが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については「映像制作」は専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画 (▼課題なげかけ ▲課題提出 ■プレゼンテーション)

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション・映像資料鑑賞 ▼ワークシート①	復習：機材・教室・備品等の申請について ▲ワークシート①	30分
2回	演習「カメラワーク①」「ノンリニア編集①」 映像表現における“著作権”について	復習：著作権表示・クレジットの表記について	30分
3回	チームディスカッション・役割分担・スケジューリング 撮影現場における“プライバシー”について	復習：プライバシー・人権について 予習：映像作品のリサーチ	60分
4回	演習「カメラワーク②」▼ワークシート②	復習：作業内容の確認 ▼ノートについて	30分
5回	演習「ノンリニア編集②」サウンド・音声・録音 映像表現における“音楽・音源”について	復習：データ整理・管理	30分
6回	試写 (経過プレゼン) プランニング・ノート制作の経過確認	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート②	30分
7回	撮影実習① 編集実習① ▼ワークシート③	復習：作業内容の確認	30分
8回	プレゼン (進捗状況) 撮影実習② 編集実習②	復習：スケジュールの再確認	30分
9回	試写① (チーム単位) 撮影実習③ 編集実習③	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート③	30分
10回	撮影実習④ 編集実習④ ▼ワークシート④	復習：作業内容の確認	30分
11回	試写② (全チーム) 撮影実習⑤ 編集実習⑤	復習：試写を経ての検討・確認	30分
12回	試写③ (チーム単位) 撮影実習⑥ 編集実習⑥	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート④	30分
13回	編集実習⑦ 映像作品完成 ▼ワークシート⑤	復習：作業内容の確認	30分
14回	作品データ提出 ノート制作・資料作成「象徴的10カット」	復習：データフォーマットについて	30分
15回	「上映」■プレゼンテーション 講評 まとめ 片付け 映像表現における“発表・上映・公開”について	復習：▲ワークシート⑤「制作ノート」提出のための準備	120分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	45%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する

■オフィスアワー・研究室

第1回目の授業で指示する。研究室：先端ファッション表現研究室 (目黒校舎研究棟 3F)

■備考 ※. 授業は全て目黒校舎での実施となります。

基礎デザイン（平面）

桐山 征士

2年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

服のコンセプトを立案し、思考の密度を高め、独自の視点とその体現を行い、オリジナリティーのあるドローイングを描く。デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。デザインとは、「かつこいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「かつこいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその体現」が重要である。デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積み重ねれば別だが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。質のエスキースでは、たくさんエスキースの中からコンセプトに見合うものを選別し、ブラッシュアップを行う。造形において必須能力である「疎密のバランス」や「明度バランス」を育む。ドローイングでは、独自の表現方法の確立を目指す。描き方(テクニック)ではなく、イメージ力を育む。デザインにおいて正確な比率での表現は必須である。コンセプトに合った姿勢の人体写真(なるべく体のシルエットが現れている下着姿や水着姿など)をトレースし、骨格・面の向き・パースなどを確認しながら、人の存在を意識して描く。表現方法は無限にあり、絵画やデザイン画などから参考になる資料を探すことから始める。コンセプトに合わせたポーズと表現方法は、イメージを伝えるための大切な要素である。各自が様々な素材・表現方法を模索する中で、過去絵の指導をしていた担当教員がアドバイスをを行いながら、オリジナリティーとリアリティーを兼ね備えた「絵」を描く能力を育てる。また、仕事量と完成度がイコールの関係でないことも理解できるような目と感覚を身につける。

■到達目標（学修成果）

デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。コミュニケーション能力が養える。積極的にディスカッションすることが、今社会で求められている積極性と忍耐力を育むという現実を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

全ての造形に関わる授業に必要な構想力・ディスカッション・プレゼンテーション、ドローイングの基礎力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	美術家兼デザイナーの担当教員による、デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義 ブランドテーマの分析	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	各自、ブランドを選んで、テーマの分析・資料作成・提出	予習：コンセプト立案のための情報収集	60分
3回	コンセプトの立案・思考の密度を上げるための情報収集及び分析	予習：コンセプト立案のための情報収集	60分
4回	コンセプトの設定① ベースとなる思想の構築 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
5回	コンセプトの設定② ベースとなる思想の決定 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
6回	コンセプトの設定③ ベースとなる思想の決定 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
7回	エスキース① 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
8回	エスキース② 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
9回	エスキース③ 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
10回	エスキース③ 質のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	復習：エスキースのブラッシュアップ コンセプトとの整合性の確認	60分
11回	ドローイング①表現方法の考察 技法の選択 担当教員による指導	復習：表現の考察 技法研究	60分
12回	ドローイング②表現方法の考察 技法の選択 担当教員による指導	復習：表現の考察 技法研究	60分
13回	ドローイング③ ドローイング制作① 担当教員による指導	復習：ドローイング	60分
14回	ドローイング④ ドローイング制作② 担当教員による指導	復習：ドローイング	60分
15回	ドローイング⑤ ドローイング制作③ 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時(授業外も含む)、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインや造形についての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントをデータで配布(留学生在が簡単に翻訳できるようにするため・紙資源の削減)

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。

基礎デザイン（立体）

桐山 征士

2年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「カッコいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「カッコいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその表現」が重要である。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積み別だが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。

エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。質のエスキースでは、たくさんのエスキースの中からコンセプトに見合うものを選別し、ブラッシュアップを行う。

流行といった刹那的なものに囚われることなく、本質的に優れたものを生み出すものが、今、求められている。この授業でも一般的なジュエリーではなく、まだ日本には馴染みが薄い「コンテンポラリー系」のジュエリーを目標とする。

ものづくりは技術ベースで考える必要はない。技術は後からついてくる。困難な加工は教員が担当する。その際の指示はデザイナーにとって身につけなければならない最低限の能力だ。依頼する力も育てる。

■到達目標（学修成果）

コンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。

有識者とのディスカッションが経験値を高め、作品のクオリティーが上がることを体験する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目 デザインプロセスと構想の練り方の基本を学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員) ジュエリーの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集 幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	復習：アクセサリーを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析 アクセサリーのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリーを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想の確認。	30分
5回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：コンセプトの深掘り	30分
6回	エスキース① 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースのバリエーション	60分
7回	エスキース② 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	60分
8回	エスキース① 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
9回	エスキース② 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
10回	図面作成もしくはレンダリング制作	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作① 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作② 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作③ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作④ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧ 表面処理 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費を集める。

ファッション販売論上級

五十嵐 朝美 ・ 鈴木 康久

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションビジネスにおける高度な販売技術の論理的理解と現代的な接客アプローチや接客ホスピタリティ等のプロフェッショナルスキルの学習を実施。更に消費者目線を通したファッション販売の在り方やその実践的な解釈を学びます。授業では講義形式による現代的な販売論全般の理解、グループワークやチームプレゼン等によるアクティブラーニングを通じた相互学習、その他演習形式の現代的接客アプローチ技術の体験型学習を行うハイブリッドで実践型の授業です。尚、本科目は実務経験のある担当教員の長年の知見（販売オペレーション、販売接客、店舗運営等）を活かした授業運営となります。

■到達目標（学修成果）

ファッション販売能力検定2級のテキストを活用しながら、現代のファッションビジネスに対応出来る高度なプロフェッショナルスキルを身に付け、ファッションアドバイザーとなる高度な接客販売技術やコミュニケーション能力を習得する事を目指す実践型授業です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は専門選択科目となります。ディプロマシー(学位授与の方針)については専門コースに関わらず選択する事が出来、ファッション業界で活躍出来る専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	オリエンテーション、販売関連知識学習 販売スタッフ・情報収集・顧客づくり	予習：シラバスの確認・教科書の確認 復習：配布資料の振り返り	20分
2回 五十嵐	販売員の基礎①、販売関連知識実践 笑顔、立ち居振る舞い、言葉遣い…接客演習	授業を受けてのレポート作成 (気づき・チャレンジ目標設定)	30分
3回 鈴木	販売関連知識学習 接客技術の知識・クレーム対応・お直し	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
4回 五十嵐	販売員の基礎②、販売関連知識学習 言葉の引き出し、言葉遣い…接客演習	授業を受けてのレポート作成 挨拶トーク作成	30分
5回 鈴木	商品関連知識学習 素材、配色（色相とトーン）、副資材、サイズ	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
6回 五十嵐	販売員の基礎③、販売関連知識学習・アプローチ I 商品のカラー・素材別アプローチ…接客演習	授業を受けてのレポート作成 アプローチトーク作成	30分
7回 鈴木	店舗関連知識学習 VMD戦略、店舗コンセプト、売り場構成	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
8回 鈴木	マーケティング関連知識学習 マーチャンドライジングとマーケティング、オムニチャネル	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
9回 鈴木	店舗関連知識学習 運営管理の基礎、計数管理、コンプライアンス	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
10回 五十嵐	販売員の基礎④、販売関連知識学習・アプローチ II ①～③の振り返り、ニーズ把握、お客様との会話…演習	授業を受けてのレポート作成 ニーズを把握するための質問作成	30分
11回 五十嵐	販売員の基礎⑤、販売関連知識学習 ひきつけるプレゼンテーション、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
12回 五十嵐	販売員の基礎⑥、販売関連知識学習 商品提案・再提案の仕方、商品知識を高める…演習	授業を受けてのレポート作成	30分
13回 五十嵐	販売員の基礎⑦、販売関連知識学習 デメリット質問への対応、根拠のある商品提案の仕方…演習	授業を受けてのレポート作成 メリット、デメリットの作成	30分
14回 五十嵐	ココロのイロ、販売関連知識学習 4つの行動スタイルを知る、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
15回 鈴木 五十嵐	総合演習・全体の振り返り アクティブラーニング	授業を受けて感じたこと、学んだことに 対してのレポート作成	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートのフィードバックは学校内システムを活用し、個別に返信。成果の確認や課題設定を行います。

■成績評価の方法・基準

授業出席・態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション販売能力検定試験2級公式テキスト 改訂版、(一般財団法人 日本ファッション教育振興協会)

■参考文献 適宜示していきます

■オフィスアワー・研究室

出講日：第三校舎 4階 (3402教室) 授業時間前後 30分

■備考：教科書及び配布資料は必ず毎回持参のこと

色彩実践学

武田 里美

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では、ファッションコンテンツにおいて重要な「色」を多角的に学びます。①色彩学として色を捉える、②トレンドとの接点を理解する、この2点を中心に、講義・演習により実践で活用できる知識や技能を学習します。日本流行色協会で実務経験を積んだ講師より、色彩の基礎から応用まで網羅し、色彩を活用する手法をお伝えします。必要に応じて検定のポイント学習も行います。

■到達目標 (学修成果)

色彩の基本的な知識、色の持つファッション上の役割や機能を理解・習得する事が出来るようになります。
配色技法の学習では演習手法も取り入れ、自分で考えながら配色を行うことで、実践に活かせる知識や技能が身につきます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	カリキュラムのガイダンス：スケジュール、内容、演習内容 流行色とは、流行色が決まるまで	予習：シラバスの確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
2回	色はなぜ見えるのか、色と光 (1)：光の種類、色温度、演色性	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
3回	色と光 (2)：物体色、分光反射率、光の現象と色	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
4回	色と眼：目の構造、視細胞、順応、色の見えの変化	予習：テキスト「色と眼」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
5回	色の伝達：色の精度、色名、カラーオーダーシステム (マンセルシステム、PCCS)、混色系	予習：テキスト「色の伝達」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
6回	混色：加法混色、減法混色、中間混色 色の感情効果 (1)：錯視、対比、同化	予習：テキスト「混色」「色の感情効果」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
7回	色の感情効果 (2)：面積効果、色の心理的現象、恒常性 色のイメージ：色記憶/記憶色、色の連想	予習：テキスト「色の感情効果」「色のイメージ」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
8回	配色1(ワーク)：色相・トーンに基づいた配色、自然な色見え、配色演習	予習：テキスト「配色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
9回	配色2(ワーク)：一般的な配色技法、配色演習	予習：テキスト「配色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
10回	配色3(ワーク)：身の回りのカラー分析(ワーク)	予習：分析素材の準備 復習：演習課題の提出	30分
11回	商品カラーの設計、トレンドカラー解説	予習：テキスト「商品カラーの設計」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
12回	カラーパレット制作1 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
13回	カラーパレット制作2 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
14回	カラーパレット制作3 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：演習課題の提出	30分
15回	カラーパレット制作4 (グループワーク)：発表、講師講評 全体の振り返り・まとめ	予習：パレット発表の準備 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業後のミニテスト および ワーク課題の提出、授業内の発表にて評価します。
ミニテストの出題・解答はmanabaを使用し、解説は次の授業の冒頭に行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

色彩実践学オリジナルテキスト (¥1,500程度、初回授業で販売します)、JIS対応ベーシックカラー140 B5

■参考文献

季刊誌「流行色」 一般社団法人日本流行色協会

■オフィスアワー・研究室

出講日：金曜日 第3校舎講師控室 (第3校舎1階)

■備考

授業の進行状況等により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

色材演習

土屋 純一

2年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

素材の色彩と材質感についての観察、発見、収集、分類、検証、構成を行う。具体的には布素材のみならず、ひろく身の回りの「モノ・コト」に眼を向けたフィールドワークから「オリジナルな色と質の資料」を制作し、平面、立体デザインへと応用する。そして将来「素材からのデザインの提案～展開」が出来る視点や可能性を準備する。

■到達目標（学修成果）

造形を行う際の素材の選択や、その特徴を生かした表現方法など色彩と質の構造について理解し、今後の服飾造形表現に応用する素材活用ができるようになる力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、選択科目である。造形表現における素材の色彩と材質に対する知識と発想力を高める為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入／授業概要。「フィールドワーク」の目的、方法。イメージと素材との関係。	復習：ファイル準備。 予習：フィールドワークによる素材調査。	60分
2回	講義／「視覚と触覚／色材と表現方法」、フィールドワークの状況確認。	復習：色材、作品、作家研究。 予習：フィールドワークによる素材収集。	90分
3回	演習①「サンプリング～資料制作」／収集、分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
4回	〃 〃 〃 色と材質感。 アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
5回	〃 〃 〃 素材の分類。 アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
6回	〃 〃 〃 色とイメージの分類。色や質を表す言葉。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
7回	講義／「集積した色と質」演習②「サンプリング&リミックス～イメージからの展開」／導入～構造と構成。 ※演習①講評。	復習：作家研究。色彩と質感のリサーチ。予習：素材収集と分類。	90分
8回	〃 〃 〃 イメージからの素材の選択、色の分析。色彩表現と質感表現の技法。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と材質の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
9回	〃 〃 〃 織りによる平面構成。アクティブ・ラーニング	復習：構造と構成の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
10回	演習③「サンプリング&リミックス～立体への展開」／色の立体構成・質の変化。 ※演習②講評。アクティブ・ラーニング	復習：準備課題「質の変化」完成。 予習：素材と画像の収集。	60分
11回	〃 〃 〃 重層構造による立体表現。アクティブ・ラーニング	復習：立体表現としての材料の選択。 予習：素材と画像の収集。	60分
12回	〃 〃 〃 立体的な視点からのデザイン構成。アクティブ・ラーニング	復習：立体的な視点からの自己作品の分析。 予習：素材と画像の収集。	60分
13回	演習④「サンプリング&リミックス～質のデザイン」／色と材質感のプレゼンテーション。オノマトペ。 ※演習③講評。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
14回	〃 〃 〃 デザインのトリミング。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
15回	まとめ「イメージファイル」／色と質感イメージ。総合講評。	予習：色彩と質感に関するイメージファイルの完成。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題終了後に講評を行う。最終作品ファイルは個別講評、採点后に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

進行に合わせて授業内で紹介し、プリントを配布する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日（12時10分～12時50分）連絡研究室 大学表現演習研究室（第三校舎1階）

■備考

毎回、授業で説明する「フィールドワーク」を通して、日頃から素材に対する幅広い考察を行うこと。授業準備を怠ると課題演習ができない。すべての配布プリント及び作品はファイルにまとめて毎回授業に持参すること。

服飾クラフト

永田 貴恵子

2年 前期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

手芸 (Hand Craft) は、世界各地で古い昔から行われその土地の生活様式に合った特有の色や模様が作り出されて来ました。本授業では様々な刺しゅうの知識を深め、基礎となる刺繡の材料 (布・糸・針など) の扱い方や技法を学びます。

■到達目標 (学修成果)

様々な刺しゅうを学び基本的な技法が習得出来ます。刺しゅう小物を制作して生活の中にデザインを取り入れられるようにすることを目標とします。また、図案を構成し刺しゅう技法を組み合わせる応用力をつけることも目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門の選択科目で卒業要件単位となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	様々な刺しゅうを知る 刺しゅう材料 (布・糸・針等) の取り扱い方 図案の写し方 フランス刺しゅう基礎の準備 サンプラーの制作	予習: シラバスを読む 復習: フランス刺しゅう基礎の確認	10分
2回	フランス刺しゅう基礎 アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等	復習: アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等の確認	10分
3回	フランス刺しゅう基礎 ブランケットS レイジーデージーS フレンチノットS サテンS等	復習: ブランケットS レイジーデージーS フレンチノット サテンS等の確認	10分
4回	ビーズ・スパンコール刺しゅう ビーズ・スパンコール刺しゅうの基礎	復習: ビーズ・スパンコールの確認 予習: 自由図案を考える	10分
5回	ミラーワーク、リボン刺しゅう ミラーの留め方 リボン刺しゅうの基礎 自由図案による刺しゅうの制作	復習: ミラーの留め方、リボン刺しゅうの確認	10分
6回	刺しゅうの応用制作 刺しゅうの仕上げ	復習: 刺しゅう応用制作のステッチの確認	10分
7回	クロスステッチ ピンクッションの制作 クロスステッチの基礎	復習: フランス刺しゅう基礎の整理 予習: クロスステッチの図案を考える	10分
8回	クロスステッチ クロスステッチの針の動き方 糸の替え方 糸の始末の仕方	復習: クロスステッチの刺し方糸の替え方、 糸の始末の仕方の確認	10分
9回	クロスステッチ 仕立て方、とじ方	復習: クロスステッチの仕立て方、とじ方の確認	10分
10回	クロスステッチ 仕上げ	復習: クロスステッチの基礎の整理	10分
11回	スモッキング刺しゅう スモッキングバッグの制作 スモッキング刺しゅうの基礎	復習: スモッキング刺しゅう基礎の確認	10分
12回	スモッキング刺しゅう ダイヤモンドSの刺し方	復習: ダイヤモンドSの確認	10分
13回	スモッキング刺しゅう 糸の替え方、糸の始末の仕方。	復習: 糸の替え方、糸の始末の確認	10分
14回	スモッキング刺しゅう 仕上げ方	復習: スモッキング刺しゅうの整理	10分
15回	授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認と刺しゅうの知識を整理する。	復習: 授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認を行う。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

作品返却時にその都度講評をします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業時に適宜プリントを配布します。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出講日: 金曜日 連絡先: 教務課

■備考

別途教材費がかかります。

服飾デザイン概論

鈴木 桜子

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「デザイン」は、単に「もの」(服飾)のイメージに合わせて色や形にしていけることではなく、最も重要な目的の一つとして、「もの」を通して人と社会をコーディネートしていきることがあげられます。そのためには時代を知り、人と社会に関心を持つ姿勢が求められ、どのようなプロセスを通して最終的な素材や色や形にしていけるかが問われます。

本授業の方針として、服飾デザインを多角的な視点から捉え、自らの服飾デザイン観が社会とどのように結びついていくのか、理論的・実践的思考を高めてプレゼンテーション、ディスカッションを行っていくアクティブラーニングを重視します。

■到達目標 (学修成果)

服飾デザインについて、自らの見識を持ち、デザインコンセプトを構築していく姿勢が持てるようになることを到達目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目として卒業認定の卒業要件科目です。服のデザイン・考え方・プレゼンに必要な技術等が修得できます。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション デザインとは何か?なぜ、服をデザインするのか?	予習: シラバスの確認	10分
2回	身近なものをデザインする	復習: 身近なものをデザインする	30分～
3回	衣服をデザインする	復習: 衣服デザインについて考える	30分～
4回	I. 時代と社会に向き合うデザイン①	復習: 時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	30分～
5回	II. 時代と社会に向き合うデザイン②	復習: 時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	30分～
6回	II. 歴史と文化に向き合うデザイン①	復習: 歴史の衣服に目を向けてみる	30分～
7回	II. 歴史と文化に向き合うデザイン②	復習: 歴史の衣服に目を向けてみる	30分～
8回	III. デザイナーの仕事	復習: デザイナーの仕事を考える	30分～
9回	ディスカッション	予習: これまでの授業を振り返り、ディスカッションに備える	30分～
10回	プレゼン+ポートフォリオ課題に向けて	復習: プレゼン、ポートフォリオの準備を始める	60分～
11回	IV. 装飾の功罪	復習: 装飾の在り方について考える	30分～
12回	V. 構造とフォルム	復習: 構造とフォルムの関係を調べる	30分～
13回	VI. 色彩・素材・技術	復習: デザイン要素を総合的に捉える	30分～
14回	プレゼンテーションとディスカッション (ポートフォリオ提出)	予習: プレゼンの準備 ポートフォリオ作成	60分～
15回	まとめと評価	復習: 講評を受けて自分の作品を振り返る。	30分～

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッション、プレゼンテーションについては受講生双方で評価を行い、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション、プレゼンテーション+ポートフォリオ
※上記に関する受講生同士の相互評価

■教科書

必要に応じてプリントを配布

■参考文献

必要に応じて授業の中で紹介していきます。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

進度により、日程及び内容は変更することがあります。

デザインプロセス

肉丸 美香子

2年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

デザインするということはアイデアやその概念を視覚可能な具体的な用途を持った形にするプロセスである。デザインは色や形により視覚的な美しさや魅力を追求すると共に、ユーザーのニーズや欲求を満たす機能的な要素を考慮することは極めて重要である。その為には、創造性、派生するさまざまな問題を解決する能力なども必要となる。

ここではファッションプロダクト製品の中からアイテムを決めムードボードの作成など、より高いレベルのデザインを生み出す方法を学ぶ。まずはアイデアスケッチやワイヤーフレームなどを作成しながらデザインの方向性を確認する。その後、各段階を踏まえ効率的にデザインプロセスを進めていく。

■到達目標（学修成果）

プロセスを踏まえてデザインしていくことにより、計画的なデザインを考えていく力が可能になる。そして自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション力が大きく飛躍する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で卒業要件単位となる。

ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション デザインプロセスの概要と重要性について	(予習)シラバスを読んで内容を確認	30分
2回	デザインコンセプトの具体例 アイデアの発想・リサーチ・デザインスケッチの方法	(復習)授業内容を理解する	30分
3回	Iプロジェクト（バッグについてディスカッション） ① デザインコンセプト（面談）	(予習)バッグについてのイメージや思いを考えてくる。	60分
4回	② デザインスケッチ（デザイン画の描き方） ③ ムードボード作成（PC使用）	(復習)デザインスケッチを完成	60分
5回	④ ムードボード作成（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料収集	60分
6回	⑤ ムードボード作成（PC使用）	(復習)ムードボードを完成させる	60分
7回	IIプロジェクト（帽子についてディスカッション） ① デザインコンセプト（面談）	(予習)帽子についてのイメージや思いについて考えてくる。	60分
8回	② アイデアの発想（リサーチ） ③ デザインスケッチ（デザイン画の描き方）	(復習)デザインスケッチを完成させる	60分
9回	④ ムードボード（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料を収集	60分
10回	⑤ ムードボード（PC使用）	(復習)ムードボードを完成	60分
11回	IIIプロジェクト)ペンダントヘッドについてディスカッション ① デザインコンセプト（面談）	(予習)ペンダントヘッドについてのイメージや思いについて考えてくる	60分
12回	② アイデアの発想（リサーチ）（PC使用） ③ デザインスケッチ（デザイン画の描き方）（PC使用）	(復習)デザインスケッチを完成	60分
13回	④ ムードボード作成（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料収集	60分
14回	⑤ ムードボード作成（PC使用）	(復習)ムードボードを完成	60分
15回	プレゼンテーション（フィードバック）	(予習)プレゼンテーション準備	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で必ずフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度（出欠席）・姿勢（意欲）	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品の完成度とプレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考 東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

消費者行動論 I

中山 英士

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

消費者行動に関わる基本的な概念を紹介するとともに、消費者行動の諸理論をマーケティング活動へと展開させる実践方法について企業にコンサルティングを行っている経営コンサルタントの実務家教員から示し、その手法を得ることを方針とします。

■到達目標（学修成果）

- ① 消費者行動の基本的な概念を把握できる（消費者ニーズ・買い物行動・購買意思決定等）
- ② 消費者行動に基づくマーケティング活動への展開方法を把握できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。ファッションビジネスを理解し、応用する理論の基礎力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【イントロダクション】消費者行動とは何か	予習：シラバスを読み講義の全体構成を把握	30分
2回	消費者ニーズ	予習：アパレル業界における消費者ニーズの変化についての考察	30分
3回	買い物行動	予習：直近の買い物では、自分自身の何の欲求を満たしたかを整理	30分
4回	購買の意思決定メカニズム	予習：直近の買い物について、購買に至った経緯を振り返りプロセスを整理	30分
5回	消費者行動を取り巻く環境の分析	【1回～4回の復習】 消費者行動プロセスの理解	30分
6回	消費者行動の分析①	復習：消費者行動を定量的に調査・分析する具体的な手法について	30分
7回	消費者行動の分析②	復習：消費者行動を定性的に調査・分析する具体的な手法について	30分
8回	パーパス・ブランディング	復習：パーパスの創り方について	30分
9回	STP（顧客戦略）	復習：有効なセグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングについて	30分
10回	ブランドとコミュニケーション①	【5回～9回の復習】 各種フレームワークの理解	30分
11回	ブランドとコミュニケーション②	予習：自分自身の興味関心がある広告とその興味関心理由を自己分析し整理	30分
12回	デジタルマーケティング	復習：消費者行動に関わるデジタルデータの種類について	30分
13回	店頭マーケティング	復習：マス広告と店頭販促の繋がりについて	30分
14回	アクティブ・ラーニング： ペルソナ設定・カスタマージャーニー作成	復習：授業内のワークで作成したカスタマージャーニーの精緻化	30分
15回	全体まとめ	【10回～14回の復習】 消費者行動全般の理解	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で個人ワークとして試験を実施し、次の授業時に講評する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 特になし

■参考文献 特になし

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：初回授業時に呈示

連絡研究室：ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 3207

■備考 なし

グローバルマネジメント特論Ⅰ

山田 晶子

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では社会潮流をベースとした、グローバル時代におけるファッションビジネスの課題を様々な観点から捉え、今後のファッション産業に求められる企業経営の方向性を、ファッションビジネス・マネジメント視点で探究していきます。グローバル市場と文化、ファッションの関係性を学び、商品のみならず、その経営理念、組織形態、リーダーシップ等、ブランドエクイティとしての成立を、事例により研究。担当講師の現場における実務経験や、業界リサーチャーの視点等から、時代性に根差した学習を実施、21世紀における、グローバル市場への考え方や、その戦略に関して、入門的理解を深めます。実感値の醸成を主眼とした、アクティブラーニングによる授業運営も実施してまいります。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修し、学修の目標を達成できた結果、社会潮流とファッションの関係性をベースに、入門編としての21世紀型グローバル市場の理解、今後のファッションビジネス・産業界の方向性の捉え方、起業家としての考え方・着眼点が修得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション ファッションビジネスにおけるグローバルマネジメントとは	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	グローバル市場のブランディング① 「日本」×「文化」⇒「ファッション」～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション① 復習：「文化」とファッションの関係性	30分
3回	グローバル市場のブランディング② グローバル視点と日本発ブランド～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション② 復習：当回のディスカッション振り返り	30分
4回	グローバル市場のブランディング③ ＜事例研究＞社会潮流とブランドに求められるもの	復習：日本発グローバルファッション③ 経営理念とビジネスモデル	30分
5回	実習「レポート作成」 演習へのベースを整理確認するため、テーマに沿って着眼点の整理	予習：演習へのベースとしての内容整理と確認	30分
6回	社会潮流とグローバルマネジメント① 第5回のフィードバック、持続可能と企業のミッション背景研究	予習：社会潮流における持続可能と企業のミッションを確認	30分
7回	社会潮流とグローバルマネジメント② 生活・ファッションへのキーワード～国内外の事例研究を共有	予習：直近のグローバルムーヴメント収集	30分
8回	グローバルマネジメントⅠ演習① グループワーク これからのFビジネス（社会潮流共有～ファッションビジネスの芽）	予習：ビジネスへの骨格づくり 復習：自グループの意見確認	30分
9回	グローバルマネジメントⅠ演習② グループワーク これからのFビジネス（ファッションビジネス具現化への5W2H）	予習：テーマへの5W2H考案 復習：自グループのテーマ深掘り	30分
10回	グローバルマネジメントⅠ演習③ グループワーク これからのFビジネス（ファッションビジネス具現化への深掘り）	予習：SDGsと企業のミッション	30分
11回	グローバルマネジメントⅠ演習④ グループワーク これからのファッションビジネス（SDGs、企業のミッション）	予習：全体観およびリアリティあるファッションビジネス創造	30分
12回	グローバルマネジメントⅠ演習⑤ グループワーク これからのファッションビジネス（グローバル展開への視点）	予習：プレゼンテーション準備	30分
13回	グローバルマネジメントⅠ発表① プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
14回	グローバルマネジメントⅠ発表② プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
15回	グローバルマネジメントⅠ発表③ プレゼンテーション 各班より発表、プレゼンテーション内容のフィードバック	復習：講評から、全体観とポイントの整理 期末レポート作成・提出	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションとレポート実施（期中・期末）に関して、第6回、第15回にて、確認と講評を行ないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書はなし。毎回、学習資料を配布します。

授業形態は「配布資料を基にパワーポイントで講義～グループディスカッション」となります。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネスマネジメント研究室（第3校舎4階/授業終了後）

■備考

毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

ブライダルファッションプランニングゼミ

井口 多恵子

2年 通年 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

1年次に学んだ服飾造形の基礎、社会人基礎や配色の知識を活かし、全日本ブライダル協会認定のカリキュラムに沿ってブライダルに関する基礎知識を修得します。

■到達目標（学修成果）

- ①全日本ブライダル協会のブライダルファッションプランナーの資格取得の試験に合格する。
- ②ブライダル業界についての理解が深まり、将来のキャリア選択の視野が広がる。
- ③資格取得後は、さらなる上位の資格を目指す一步になる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件の専門選択科目です。ブライダル業界で活躍できる基礎的な知識の修得に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	1. オリエンテーション：ブライダル協会の活動とブライダル業界の現状を学ぶ 2. 結婚式の種類：挙式のスタイルを学ぶ。	予習：シラバスを読む コンテンツ1、2を読む	30分
2回	2. 結婚式の種類：挙式のスタイルを学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
3回	3. 日本の婚礼の歴史：古来～現代の婚礼スタイルに至るまでの歴史を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
4回	3. 日本の婚礼の歴史（継続） 4. 結納・婚約の現状：結納・婚約から結婚式までの流れを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
5回	4. 結納・婚約の現状（継続） 5. セレモニー・レセプションの現状とトレンド：多様化するセレモニー・レセプションの現状とトレンドを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
6回	6. カラーコーディネート：演出として「色」を活用できるように色彩の基礎を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
7回	7. フラワーコーディネート：空間演出をする会場装花やウェディングブーケ・ブートニアについて学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
8回	8. 婚礼衣装の基本コーディネート：ウェディングドレスの必須アイテムとそのコーディネート方法を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
9回	8. 婚礼衣装の基本コーディネート（継続） 9. フォーマルファッション：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
10回	9. フォーマルファッション（継続） 10. 和装コーディネート：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
11回	10. 和装コーディネート（継続）：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：学習した範囲のコンテンツを読む。	40分
12回	婚礼に関する衣装やアクセサリーなどの見学、グループワーク（着装体験）とディスカッション 小試験	復習：11回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：次のコンテンツを読む。	40分
13回	小試験解説 11. フォトスタイリング：花嫁を美しく撮影するための基礎知識を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
14回	12. ブライダルアテンドの方法：カップルの身の回りの世話やスケジュールを管理するアテンダントの役割を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	40分
15回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	40分

16回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba 小テストで振り返る予習：関連コンテンツを読む。	40分
17回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分
18回	和装と洋装衣装見学	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分
19回	セレモニー・レセプション会場見学	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分

【31】

20回	マナー実習	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	30分
21回	13. 接客の知識：お客様に満足してもらえる物やサービスが提供できる知識を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	30分
22回	14. 基本のマナー（名刺交換・訪問・食事等）：人と交際するうえで必要なマナー（礼儀作法）を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
23回	15. 専門用語：式場で使う用語、宝飾（ジュエリー）用語を学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
24回	試験対策1：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ、→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す。	40分
25回	試験対策2：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	40分
26回	試験対策3：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	40分
27回	試験対策4：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	60分
28回	試験対策5：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする	60分
29回	模擬試験：検定試験を想定して行う。	復習：すべての単元に目を通す	60分
30回	まとめ 検定試験の解説	復習：検定試験の問題に目を通す	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

制作した作品について、提出後 manaba にてコメントし、返却する。模擬試験、検定試験について試験実施後に解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%	小試験、試験対策1～5、模擬試験 作品：ペール制作、コサージュ制作
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験	20%	全日本ブライダル協会認定ジュニアライセンス検定

■教科書

「ブライダルの基礎知識」全日本ブライダル協会発行
「フォーマルウェア・ルールブック」日本フォーマル協会発行
内容に応じてプリントを配付します。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業時にお知らせします。

■備考

授業計画15～17回（フラワーコーディネート実習：コサージュ制作、婚礼衣装アイテム実習：ペール制作）、
授業計画18回（和装／洋装の衣装見学）19回（セレモニー・レセプション会場見学）20回（マナー実習）については
授業時間配当表の通常時間外に実施する計画になります。

日程及び内容は変更することがあります。

検定試験（12月初旬に実施予定）までに30回の授業を確保します。（変則に授業日を設定します。日程は随時伝えます）
テキストは毎回持参します。

検定料が25,000円（教科書代、受験料、認定証書代を含む）がかかります。なお、見学及びテーブルマナー実習費として
10,000円、材料費（ペール制作、コサージュ制作）に3,000円が別途かかります。

インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で10日以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

長期インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で2週間以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）

阿部 睦子

2年 前期 選択 （2単位 講義）

■授業の方針・概要

社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、より良い生活設計のあり方を探ります。授業形態は講義・演習を基本としますが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指します。

■到達目標（学修成果）

今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についての視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、選択科目として卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画、生活構造の概要を知り、家庭生活の本質について考える。	予習：シラバスをよく読む。 復習：配布資料を見直す。	30分
2回	家族の形成と変遷：家族とは何か、家族の形成を中心とした人間生活の成り立ちについて歴史を辿ることで考える。	復習：配布資料を見直し、家族の形成についての理解を深める。	30分
3回	家族や家族関係をめぐる現代の諸現象と問題：現代の家族や家族関係の問題と改善案を考える。	復習：配布資料を見直し、家族関係や家族心理についての理解を深める。	30分
4回	自分らしく生きるための生活設計：生涯を見通す長期、中期、短期の設計など、ライフプランについて考える。	予習：将来をイメージしてくる。 復習：配布資料を見直す。	60分
5回	生活時間の実態と分類：生活時間からワークライフバランスについて考える	復習：配布資料を見直し、生活時間についての理解を深める。	60分
6回	「食べる」：家庭経営を具現化するために、食生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、食生活について理解を深める。	60分
7回	「着る」：家庭経営を具現化するために、衣生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、衣生活について理解を深める。	60分
8回	「住まう」：家庭経営を具現化するために、住生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、住生活に理解を深める。	60分
9回	「育つ・育てる」：子どもを育てる視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、子どもの成長に関しての理解を深める。	60分
10回	「高齢社会」：高齢者の視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し高齢者についての理解を深める。	60分
11回	「買う」：ライフステージ別の家計の具体例を通して家計の実態を知り、家庭経済と家庭管理について考える。	予習：発表者は準備。復習：買うことを通して社会とつながる家庭経済についての理解を深める。	60分
12回	「ジェンダー」：男女共同参画社会をベースに、よりよい家事労働の在り方について考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直しジェンダーについての理解を深める。	60分
13回	「持続可能な社会」：ESD・SDGsを通して、循環型社会を創る消費者のライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、持続可能な社会の形成についての理解を深める。	60分
14回	「シチズンシップ」：家庭経営と協働・共生生活を拓くライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、シチズンシップ教育の広がりについて理解を深める。	60分
15回	まとめ：課題のフィードバックを行い、家庭経営についての理解を深める。	予習：これまでの学習を振り返る。 復習：今後の生活課題を自覚する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・基本的に授業の前後どちらかに振り返りの時間を設け、ナラティブなど記述する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	・授業姿勢（欠席・遅刻も含む） ・日常課題を重要視する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・生きる力をつける学習-未来をひらく家庭科- 望月 一枝 著者代表 教育実務センター

■参考文献

・21世紀の生活経営-自分らしく生きる- 白井和恵 編著 同文書院

■オフィスアワー・研究室

・授業終了後30分程度・第3校舎講師控え室（第3校舎1階）、その他何かあれば教務課経由でお願いします。

■備考

・特になし

家庭電気・機械

阿久津 勝利

2年 前期 選択 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換の技術」の基礎について学びます。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等を取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対処する方法について考えます。中学校技術・家庭科における関係する指導の実際についても紹介します。

■到達目標（学修成果）

- ・生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになる。
- ・家庭生活中で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。
- ・エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修その後	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日常生活におけるエネルギーの利用とその技術について考え、中学校における指導内容を知る。 道具から機械の発明、機械の構成について知る。	予習：中学・高校で学んできた電気や機械に関する学習をふりかえる。 復習：学習指導要領を読んで、中学校・高等学校における指導内容を知る。	90分
2回	電気の基礎知識を確認する。電圧と電流、電力、直流と交流	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
3回	発電、送配電と電気の安全な利用について知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
4回	電気エネルギーの熱への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
5回	電気エネルギーの光への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
6回	電気エネルギーの動力への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
7回	機械の運動伝達、機構、機械材料について知る。 ミシンの構成と布を縫うしくみについて知る。	復習：関心のある機器を選び、そのしくみについて調べる。	90分
8回	電気の情報伝達への利用について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。 まとめ	復習：選んだ機器について、そのしくみと、取り扱い上の留意点等についてレポートにまとめる。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む） ②課題の達成度 ③レポートの内容
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・やさしい家庭電気・情報・機械 藪 哲郎 著 講談社

■参考文献

- ・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 代表 田口浩継 東京書籍 令和4年度用
- ・生活家電入門 発展の歴史としくみ 大西正幸 著 技報堂出版
- ・家電が一番わかる 涌井良幸 涌井貞美 著 技術評論社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時30分～15時00分）

連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

なし

食物学（実践栄養学）

山田 奈緒子

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。

■到達目標（学修成果）

食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何かがわかり、実際の食生活で実践できる。

ライフステージごとの食生活上の注意点がわかる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については専門選択単位（ライフスタイル関係）となります。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション—食べるとは？— グループディスカッションを通し、 食べる意義について考えてみる	予習：栄養・健康などについて知りたいことを考えまとめておく。 1-2ヶ月の食生活について振り返る。	30分
2回	栄養と栄養素について 栄養素の種類と水の働き	復習：五大栄養素についてまとめる。	30分
3回	炭水化物① 食物繊維の働き	復習：食物繊維の分類と役割についてまとめる。	30分
4回	炭水化物② 糖質の種類と特徴および働き、人工甘味料について	復習：糖質の分類と特徴についてまとめる。	30分
5回	たんぱく質 食物摂取頻度調査の実施 たんぱく質の構造と働き	復習：アミノ酸の種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
6回	脂質① 脂質の種類とコレステロールの特徴	復習：コレステロールの役割と特徴についてまとめる。食事記録の作成。	30分
7回	脂質② 脂質の種類と脂肪酸の特徴	復習：脂質の質についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
8回	ビタミン① 脂溶性ビタミンの種類と特徴	復習：脂溶性ビタミンの特徴と過剰症についてまとめる。食事記録の作成。	30分
9回	ビタミン② 水溶性ビタミンの種類と特徴	復習：水溶性ビタミンの特徴と役割をまとめる。食事記録を作成する。	30分
10回	ミネラル 代表的なミネラルについて特徴と働き	復習：ミネラルの種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
11回	食事摂取基準の読み方について 適切なBMIの理解について	復習：健康的な食生活について考える。食事記録を作成する。	30分
12回	生活習慣病について① 肥満とやせによる問題	復習：生活習慣病の復習および食事記録の作成	30分
13回	生活習慣病について② メタボリックシンドローム、糖尿病、歯の健康など	復習：これまでの食事記録を振り返り、改善点を考える。	30分
14回	4群点数法の利用方法 自分に不足する栄養素と食品について考える	復習：4群点数法の復習および食事記録、レポートの作成	30分
15回	もっと野菜を食べよう 野菜を多く摂取するためにどうするか実験を通して考える	復習：授業の復習およびレポートの作成。正しい食生活を実践する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

食事記録やレポートについては授業内で講評し、返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意すること。 *毎回次回授業までの2日間の食事記録を作成する。 また、まとめのレポート課題を提出する。
業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002調理実習室内

■備考

毎回、教科書とノートを持参すること。

家庭情報処理

阿久津 勝利

2年 後期 選択 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術を高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとします。また、中学校における情報処理に関係する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えます。

■到達目標（学修成果）

- ・生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになる。
- ・教員として必要な情報活用能力の基礎が身に付く。
- ・校務や問題解決にコンピュータを活用しようとする意欲が高まる。
- ・情報に関する基本的技術について理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	○情報社会 ・情報とメディアとそれらの特性 ・問題解決の方法 ○中学校、高等学校における情報に関する学習指導要領	予習：自分の情報手段の活用能力を確認する。 復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
2回	○情報デザイン ・情報のデジタル化 ・数値の表現 ・文字、音、画像のデジタル表現 ・データの圧縮 ○表計算ソフトウェアによる成績処理	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
3回	○コンピュータのしくみ ・コンピュータの構成・データ処理のしくみ・論理回路 ○表計算ソフトウェアの利用（関数、マクロ）	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
4回	○情報通信ネットワーク ・ネットワークのしくみ ・インターネットの利用 ○表計算ソフトを利用したデータの分析	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
5回	○プログラミング入門 ・アルゴリズム ・プログラムの仕組み ・プログラムの制御構造（順次 分岐 反復） ○プログラミング1	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
6回	○プログラミング2	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
7回	○プログラミング3	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
8回	○情報技術の適切な活用 ○まとめ	復習：授業内容をふりかえり今後の課題について整理する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて授業等で返却します。家庭学習の課題をmanaba course で課します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①活動に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	②課題の達成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	③レポートの内容
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・高等学校用 文部科学省検定教科書 高等学校 情報 I Step Forward! 赤堀 侃司 他 著 東京書籍

■参考文献

・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 東京書籍 令和4年度用

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時00分～15時00分） 連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

毎時間必ず教科書と授業で配布したプリント類（ファイリングしておく。）を持参してください。また、実習で作成したデータファイルを保存するためのUSBメモリーを各自購入して用意すると便利です。（詳しくは、1回目の講義で説明します。）

キャリアプランニング

平松 隆司

2年 後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

就職活動は単に会社を探し仕事に就くといったことの作業をすることではなく、自分自身と向き合い、社会情勢をきちんと理解し、将来どのようなキャリアを形成していくかについて考え行動することである。短期的視点ではなく、将来にわたって自分の目指すゴールがどこにあるのか、自分がやりたいことは何なのか、そしてどんな人生にしたいのか、長期的に考えていくことであり、且つ必要なことである。キャリアデザインの基本的な考え方や就職活動の流れを理解し、より良い職業選択ができるように学習する。

■到達目標（学修成果）

- ①キャリアプランニングとは何かを知り理解する。
- ②雇用環境の現状を理解し、自己分析を通じて自らのキャリアをデザインする力を身につけることができる。
- ③社会人、卒業生の体験を聞くことを通して将来像を描ける能力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の共通必修で、社会人基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ノート、アンケート、採点基準、講義概要、ハンドアウト（印刷物）の配付	予習：シラバスを読む	60分
2回	【業界・企業研究】①－雇用と労働市場－新卒の雇用と労働市場を理解し社会が求める人材について考える①	予習：社会人に求められることについて考えてくる 復習：学生と社会人の違いについてレポートする	30分
3回	【業界・企業研究】②－産業と職業－社会の中にある働く場（産業）と働き方（職業）について業界誌から学ぶ	予習：将来、目指している仕事について考えてくる 復習：産業と職業に関するレポート作成	30分
4回	【業界・企業研究の基本】①－業界・企業を研究するための情報収集－（総合アパレルの仕事）を学ぶ	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。 予習：次の項目を読む	30分
5回	【業界・企業研究の基本】②－業界・企業を研究するための情報収集－（小売業アパレルから仕事を学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する 予習：次の項目を読む	30分
6回	【業界・企業研究の基本】③－業界・企業を研究するための情報収集－（SPA企業の仕事）を学ぶ	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する 予習：次の項目を読む	30分
7回	【業界・企業研究の基本】④－業界・企業を研究するための情報収集－（空間デザイン企業の仕事）を学ぶ	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
8回	【業界・企業研究の基本】⑤－業界・企業を研究するための情報収集－（ECビジネスの制作現場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
9回	【業界・企業研究の基本】⑥－業界・企業を研究するための情報収集－（ヴィジュアル制作の現場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
10回	【業界・企業研究の基本】⑦－業界・企業を研究するための情報収集－（縫製工場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
11回	【業界・企業研究の基本】⑧－業界・企業を研究するための情報収集－（新卒人材について考える－各企業からの説明）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
12回	【業界・企業研究の基本】⑨－業界・企業を研究するための情報収集－（副資材・付属品メーカーについて学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
13回	新卒の雇用と労働市場を理解し、求める人材について考える就職活動の流れについて②	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
14回	新卒の雇用と労働市場を理解し、求める人材について考える就職活動の流れについて③	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
15回	【まとめ】講義全体から学んだことに対して、実践的就職活動の流れについて理解を深める	予習：14回迄に配付した資料を復習してくる 復習：学んだことを元に就職活動の準備を進める。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業課題（レポートなど）については授業内にフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業で必要とする資料は適宜小冊子やプリント等を配付する。

■参考文献

適宜

■オフィスアワー

10：00～17：00（水曜日除く）本校舎1階就職部

■備考

この科目では、原則として遅刻は認めません。授業中に次のことはしてはいけません。離席、私語、飲食、メールなど授業に関係のないこと。

心理学A

手島 陽介

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か① ー心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界ー	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か② ー心理学の活躍する場、心理学の歴史ー	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理 ー個人の性格について、遺伝と環境、性格テストー	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理① ー乳幼児期～児童期までの発達段階と課題ーグループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのかを考えてくる	15分
5回	発達の心理② ー青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについてーグループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム ーストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけー	復習:自身の身の回りのストレスナーについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション ー人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現ー	復習:非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話をする	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム① ー人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出についてー	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム② ー欲求不満の心理、ストレスとストレスナーの関係、自我防衛機制ー	復習:身の回りのストレスナーについて考え、コーピングを試してみる	30分
11回	集団の心理 ー集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについてー	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30分
12回	色彩の心理学と服飾 ー色が人のこころに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係ー	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考える-	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Aのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室

後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

心理学B

手島 陽介

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心理学とは何か① ー対人認知と印象形成、意識と無意識ー	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30分
2回	心理学とは何か② ー対人魅力と人間関係を探るー	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30分
3回	影響の心理① ー他者からヒトはどのように影響を受けるかを考えるー交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30分
4回	影響の心理② ービジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学ー	復習:実際のCMや広告などでメディアによる心理的影響について考える	30分
5回	知覚の心理① ーヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、ー	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30分
6回	知覚の心理② ー音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界ー	予習:身の回りの音楽や店舗のBGM、環境音などについて調べてくる	15分
7回	思考の心理① ー「考える」とは何か、問題解決能力とはーグループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60分
8回	思考の心理② ー創造性と創造的人格、創造性の段階ーグループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30分
9回	犯罪の心理 ー犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理ー	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30分
10回	精神的健康とは ーこころが健康な状態を考えるー	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30分
11回	心と身体の関係① ー認知・感情・行動・身体から心のバランスを考えるー	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30分
12回	心と身体の関係② ー呼吸法とストレス、睡眠などについてー	復習:呼吸について、日常で体験をする	30分
13回	幸福感と人間関係 ー世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因ー	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Bのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

憲法 -法学入門-

東島 日出夫

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などというと、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。

また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

■教科書 特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

- 参考文献
- ・芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023年）
 - ・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）
 - ・渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法1人権（第8版）』（有斐閣、2022年）・『憲法2統治（第8版）』（有斐閣、2022年）

■オフィスアワー・研究室 連絡先：教務課（本校舎） 出講日：金曜日

■備考 なし

化学A－皮膚科学と化粧品科学－

野村 直

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな観点を含みながら講義します。

■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30分
2回	<皮膚概論1>役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30分
3回	<皮膚概論2-1>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
4回	<皮膚概論2-2>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
5回	<皮膚概論3-1>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
6回	<皮膚概論3-2>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
7回	<皮膚概論4>皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライスキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<皮膚概論5-1>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
11回	<皮膚概論5-2>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
12回	<皮膚概論6-1>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
13回	<皮膚概論6-2>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
14回	<皮膚概論6-3>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物は コメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利穎著 漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王（株）ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室 金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

化学B-皮膚と毛髪と化粧品科学-

野村 直

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30分
2回	<皮膚総論①>皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30分
3回	<皮膚総論②>皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
4回	<毛髪概論①-1>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
5回	<毛髪概論①-2>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
6回	<毛髪概論②-1>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
7回	<毛髪概論②-2>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<毛髪概論③-1>ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30分
11回	<毛髪概論③-2>パーマメントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30分
12回	<毛髪概論③-3>ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30分
13回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第1回と第12回授業の内容を整理しておく。	30分
14回	「香りの世界」	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著、漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンス著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室 金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します

英語（総合）A

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Aの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とし、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、毎回のミニプレゼンテーションや学期末の長めのプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、自己紹介など	シラバスを読む。	30分
2回	キャンパスライフについて（1）	次回の予習	30分
3回	キャンパスライフについて（2）	次回の予習	30分
4回	日本の文化について（1）	次回の予習	30分
5回	日本の文化について（2）	次回の予習	30分
6回	休みの計画について（1）	次回の予習	30分
7回	休みの計画について（2）	次回の予習	30分
8回	ファッションについて（1）	次回の予習	30分
9回	ファッションについて（2）	次回の予習	30分
10回	ライフスタイルについて（1）	次回の予習	30分
11回	ライフスタイルについて（2）	次回の予習	30分
12回	プレゼンの技術・準備について	プレゼンテーションの準備	30分
13回	期末プレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備	30分
14回	期末プレゼンテーション②	他の学生へのフィードバック	30分
15回	全体へのフィードバック	総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業で学んだことを元に簡単な英語の文章を毎回提出してもらいます。また、毎回プレゼンテーションに必要なスライド等もmanaba上で提出してもらいます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	フィードバックシート、小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

関連の英語記事を配布、スライド等で用意

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

ワールド・カルチャーA

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

各国の一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている言語や英語に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけでなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。動画の視聴や記事の読解などを通じて主にリスニングやリーディングの技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	シラバスを読む。	30分
2回	インド	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
3回	フランス	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
4回	フィリピン	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
5回	インドネシア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
6回	タイ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
7回	ベトナム	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
8回	中国	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
9回	カナダ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
10回	韓国	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
11回	ロシア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
12回	イギリス	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
13回	プレゼンテーション技術について学習・準備	プレゼン資料作成	30分
14回	プレゼンテーション	プレゼン準備	30分
15回	プレゼンテーション	前期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

優れたフィードバックシート、コメントはクラスで紹介しします。毎回グループで短い発表を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、フィードバックシート、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜資料を配布する

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

ファッション英語 A

北澤 茉奈

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようにする。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 プリントを配布します。

■参考文献 必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室 英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、プリントを用意します。

ファッション英語 B

北澤 茉奈

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 プリントを配布します。

■参考文献 必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、プリントを用意します。

フランス語（総合）A

福本 しのぶ

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

フランス語の歴史を追いながら、フランス文化を学び、フランスのエスプリを感じ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理	10分
2回	フランス語の歴史 発音の決まり	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランス語基礎会話 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの生活 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
7回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
8回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す 予習：フランスらしさ、とは何か。	30分
9回	フランスの文化 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランス語基礎会話 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
11回	フランスの生活 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
13回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
14回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す 予習：フランスらしさ、とは何か。	30分
15回	まとめ	復習：講義メモ整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/理解の確認を行い、最後にレポート提出か発表をしてもらう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行う。

言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

フランス語（総合）B

福本 しのぶ

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランスの歴史、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランス語の歴史 発音の決まり / 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理	10分
2回	発音の決まり 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの芸術 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	発音の決まり 基本単語	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランスの過去	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
7回	フランスの現在	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
8回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
9回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
10回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す	30分
11回	映画のセリフを考える	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
13回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
14回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す	30分
15回	まとめ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

中国語（総合）A

盧 繁華

2年 前期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

一年生の総合ⅠとⅡの内容をレベルアップした中国語文の構築や品詞の働きなどを充実させる。特殊な文法文型を深めながら中国語作文を自由に活用できるように授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の聞く、話す、書く、読む総合力を高めることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）A】は教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語の複文構造	復習：既習の文型文法 1年目の「中文課本」第3課～16課	40分
2回	等位複文、偏正複文、多重複文	予習：第1課「自己紹介」の読み練習	30分
3回	等位複文の種類	復習：第1課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
4回	等位複文の一種→並列表現文	予習：第2課「私の家庭」の読み練習	30分
5回	偏正複文の種類	復習：第2課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
6回	偏正複文の一種→譲歩関係の表し	予習：第3課「インターネット」読み練習	30分
7回	比較文の表し方→“比”の構文	復習：第3課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
8回	特定条件複文	予習：第4課「約束」の読み練習	30分
9回	常用疑問詞の呼応表現	復習：第4課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
10回	常用副詞の活用	予習：第5課「温泉旅行」の読み練習	30分
11回	補語の種類と重要な働き	復習：第5課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
12回	方向補語	予習：第6課「私の趣味」の読み練習	30分
13回	特殊な存現文の伝達機能	復習：第6課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内及び授業外で完成した平常小テストを期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞の『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（総合）B

盧 繁華

2年 後期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

既習の内容を実践に応用できるようにする。教材文を使うと同時に中国語圏のニュース記事などの新鮮な話題を取り入れた模範文に合わせて勉強し、文章翻訳をも新たに拡張する。

■到達目標（学修成果）

大学二年生の中国語レベルに達成し、中国語の文章力を身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）B】は【中国語（総合）A】と併せて教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の文法ウォーミングアップ	復習：教科書第1課～6課までの復習	30分
2回	特殊文“是…的”	予習：教科書第7課「友達になる」	30分
3回	様態補語	復習：第7課の読解練習問題	30分
4回	可能補語	予習：教科書第8課「会食する」	30分
5回	常用疑問詞の不定用法	復習：第8課の読解練習問題	30分
6回	選択複文	予習：教科書第9課「目覚まし時計」	30分
7回	受身文“被”の構文	復習：第9課の読解練習問題	30分
8回	転折複文	予習：教科書第10課「アルバイト」	30分
9回	動量補語の用い方	復習：第10課の読解練習問題	30分
10回	使役文	予習：教科書第11課「冬休み」	30分
11回	連動文の構造	復習：第11課の読解練習問題	30分
12回	“把”の文構成特徴	予習：教科書第12課「留学」	30分
13回	常用副詞“就”、“都”の応用	復習：第12課の読解練習問題	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

博物館資料保存論

梶淵 規彰

2年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館資料論を基礎として、博物館資料の保存の意義、目的、資料保存の前提としての劣化要因とその対策、資料の材質に応じた劣化対策、保存技術等について、論理的に授業を進めます。

■到達目標（学修成果）

学芸員が日常的に取り扱う博物館資料について、収集、保管、調査研究、展示他の活用といった博物館機能の各局面において、資料保存の理論と実践法を習得し、時代に適応できる博物館学芸員としての資質を得られるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、学芸員資格取得のための必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館資料保存の意義、目的	予習 シラバスを事前に目を通す	30分
2回	博物館資料の種類と特性	復習 博物館資料の種類と種類ごとの特性について確認する。	30分
3回	文化財保護と博物館資料1	復習 文化財と博物館資料の関係について確認する。	30分
4回	文化財保護と博物館資料2	復習 博物館資料と文化財保護の関係について確認する。	30分
5回	博物館史にみる資料保存の方法	復習 博物館史上の伝統的保管方法について確認する。	30分
6回	博物館資料の材質による劣化と対策1 瞬間的・破壊的な劣化(人災、天災)	復習 人災や天災による瞬間的・破壊的な劣化と対策について確認する。	30分
7回	博物館資料の材質による劣化と対策2 緩慢、確実に進行する劣化①(温湿度、大気等)	復習 温湿度の変化、大気中の粉塵等の影響・対策について確認する。	30分
8回	博物館資料の材質による劣化と対策3 緩慢、確実に進行する劣化②(汚染物質、薬品類、光等)	復習 大気中の汚染物質及び薬品類、光等の影響・対策について確認する。	30分
9回	博物館資料の材質による劣化と対策4 緩慢、確実に進行する劣化③(虫害、黴菌類等)	復習 虫害及び黴菌類等の影響・対策について確認する。	30分
10回	博物館資料の修理と修復	復習 博物館資料の修理・修復の必要性とその方法について確認する。	30分
11回	博物館資料の保存環境(収蔵施設・展示施設等)	復習 博物館資料の保管・展示に適した施設の条件について確認する。	30分
12回	博物館資料保存のための科学技術1	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
13回	博物館資料保存のための科学技術2	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
14回	博物館資料の取扱い1(資料取扱い上の留意点等)	復習 博物館活動の様々な局面における資料取扱い上の留意点を再確認する。	45分
15回	博物館資料の取扱い2(展示ほかの活用等)	復習 展示他の活用の局面での資料保存を前提とする取扱い法を確認する。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業時間中に小試験を実施し、出題の意図及び模範回答等について解説し、理解・習得の促進をサポートします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業への取組みは、出欠状況を中心に受講態度、取組状況等評価します。授業内試験を実施し、講義内容の理解度を測定し、成績判定に活用します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

本田光子・森田 稔 『博物館資料保存論』、青木 豊 編 『人文系博物館資料保存論』

■オフィスアワー・研究室

土曜日（講義時間 14:55～16:05）第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

なし

博物館経営論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館の経営について学習する。多様化する博物館の経営体制について認識を深め、今日の博物館経営をめぐる諸相を把握し、今、博物館に何が求められているのか、また博物館本来の存在意義について学習する。

■到達目標（学修成果）

- ・博物館の適切な機能や経営体制の把握
- ・ミュージアムマネジメントについての基礎的事項の理解
- ・現代博物館を多角的な視点で考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館経営論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	ミュージアムマネジメントの意義について学習する。	予習：教科書の博物館経営論部分を読んでおくこと。 復習：ミュージアムマネジメントについてまとめておくこと。	60分
3回	博物館法について学習する。	復習：博物館法の復習	30分
4回	独立行政法人立等、設立母体について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	指定管理者等、設立母体について学習する。 設立母体についてのまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
6回	博物館評価について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
7回	博物館の館内組織・館外組織について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
8回	博物館の施設・設備について学習する。	予習：インターネット上で博物館建築をリサーチしておくこと。復習：配布資料の読み返し。	60分
9回	博物館におけるマーケティングについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、マーケティングについてまとめておくこと。	30分
10回	ミュージアムショップやレストラン等アメニティという側面から学習する。	予習：インターネット上でミュージアムショップ、レストランをリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	60分
11回	今日の社会状況を踏まえた博物館の課題について学習する。	復習：配布資料の読み返し、博物館をめぐる課題をまとめておくこと。	30分
12回	まとめ（小テスト）及びプレゼンテーションのための説明。	復習：配布資料の読み返し、全体の振り返り	90分
13回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション・ディスカッション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	90分
14回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション・ディスカッション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り・プレゼンテーション準備	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験・プレゼンテーションの後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献 随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。

博物館資料論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館において資料は必要不可欠な存在である。どんな博物館でも「資料」を有し、コレクションをなしている。今日の博物館のコレクションは多種多様であり、一口で「博物館」と言ってもその範囲は極めて大きい。本講では現代博物館が扱う資料（コレクション）について、博物館の歴史とともに体系的に学習する。また、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及という4つの博物館機能（活動）を通して、いわゆる実物（1次資料）から2次資料が発生していくことを理解し、それぞれの機能（活動）における1次資料・2次資料の特性・役割を学習する。

■到達目標（学修成果）

博物館資料の様々な特性を理解し、博物館活動にとって必要なもの・ことを認識できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館資料論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館の成立背景に見られる資料についての事例を挙げ、博物館＝資料の存在を認識する。	予習：教科書の博物館資料論の部分を読んでおくこと。	30分
3回	1次資料と2次資料の博物館活動における役割、及び資料の価値について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
4回	1次製作資料として分類される実物製作資料と情報製作資料について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	1次標本資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。」	30分
6回	1次標本資料（2）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
7回	1次資料についてのまとめ（小テスト） 2次資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。 博物館へのフィールドワーク。博物館資料の実態を見学、ディスカッション準備。	60分
8回	2次資料（2）について学習する。 博物館資料についてのディスカッション。	復習：ディスカッション整理	60分
9回	2次複合製作資料について学習する。 2次資料についてのまとめ（小テスト）	復習：語句の整理をしておくこと。	60分
10回	博物館機能を再確認する。 資料の収集について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
11回	資料の整理保管について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
12回	資料の調査研究活動について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
13回	教育普及という観点から、資料のもつ意味とその効果について学習する。	復習：配布資料の読み返し、教育普及活動のまとめをしておくこと。」	30分
14回	資料の取り扱い、及び運搬という観点から学習する。 博物館機能のまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験の後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献 随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。